

写真集「高萩」

あいらる
ゆのたまこ

高萩市制施行35周年記念

あふ
ゆる
み
の
ろ
と

市民憲章

一、自然をたいせつにし、
美しいまちをつくりまし
よう

一、きまりを守り、明るい
まちをつくりましょう

一、礼儀を正しくし、うる
おいのあるまちをつくり
ましょう

一、元気で働き、豊かなま
ちをつくりましょう

一、思いやりのある、あた
たかいまちをつくりまし
よう

昭和49年(1974)11月制定

ブロンズ像「愛の讃歌」

昭和49年(1974)11月建立



市の木／まつ



市の花／はぎ



市の鳥／きじ

昭和49年(1974)3月制定

目次

発刊に寄せて	3
1. 豊かな自然	4
2. のびゆく高萩	10
発展する産業	12
のびる交通	16
ひろがるまち	18
高萩の観光10選	26
3. 歴史へのいざない	28
ふるさとを訪ねて	30
高萩地方の古墳	32
4. 産業の移り変わり	34
炭鉱の変遷	36
馬市から牛市へ	46
その他の産業	54
5. 生活文化の移り変わり	60
町並み	62
思い出の建物	72
交 通	78
生活文化・行事	84
教 育	96
■資料・年表編	108



KDD茨城衛星通信所の朝焼け

発刊に寄せて



再現されたふるさと

市制施行35周年記念事業の写真集「高萩」ふるさとのあゆみが、立派に完成したことを心からうれしく思います。

この仕事は、変わりゆくふるさとのすがたに愛着をもって、永年克明に撮り続けて来られた柏義夫先生の貴重な写真の記録を中心に、市制施行35周年記念事業として市民に公開しては、との提案から始められたものでした。同時に、市内に保存されている記録写真の提供を市報などを通じて呼びかけたところ、市民の皆様からたくさんの写真が寄せられ、予想以上に充実した内容となりました。

激動の時代だった昭和を中心として、私たちのふるさが、近代日本のあゆみとともに変化して来た時代の映像の記録は、その時期に生をうけた者にとって、哀歓の感動とともに忘れることのできない思い出となっています。

私どもは、この写真集によって再現されたふるさとのすがたに、往時をしのぶとともに、昭和40年代の炭鉱の閉山、馬市の終焉^{しゅうえん}など、20年に及ぶ変革と再建の苦難の時代を、あらためて心に刻みたいと思います。

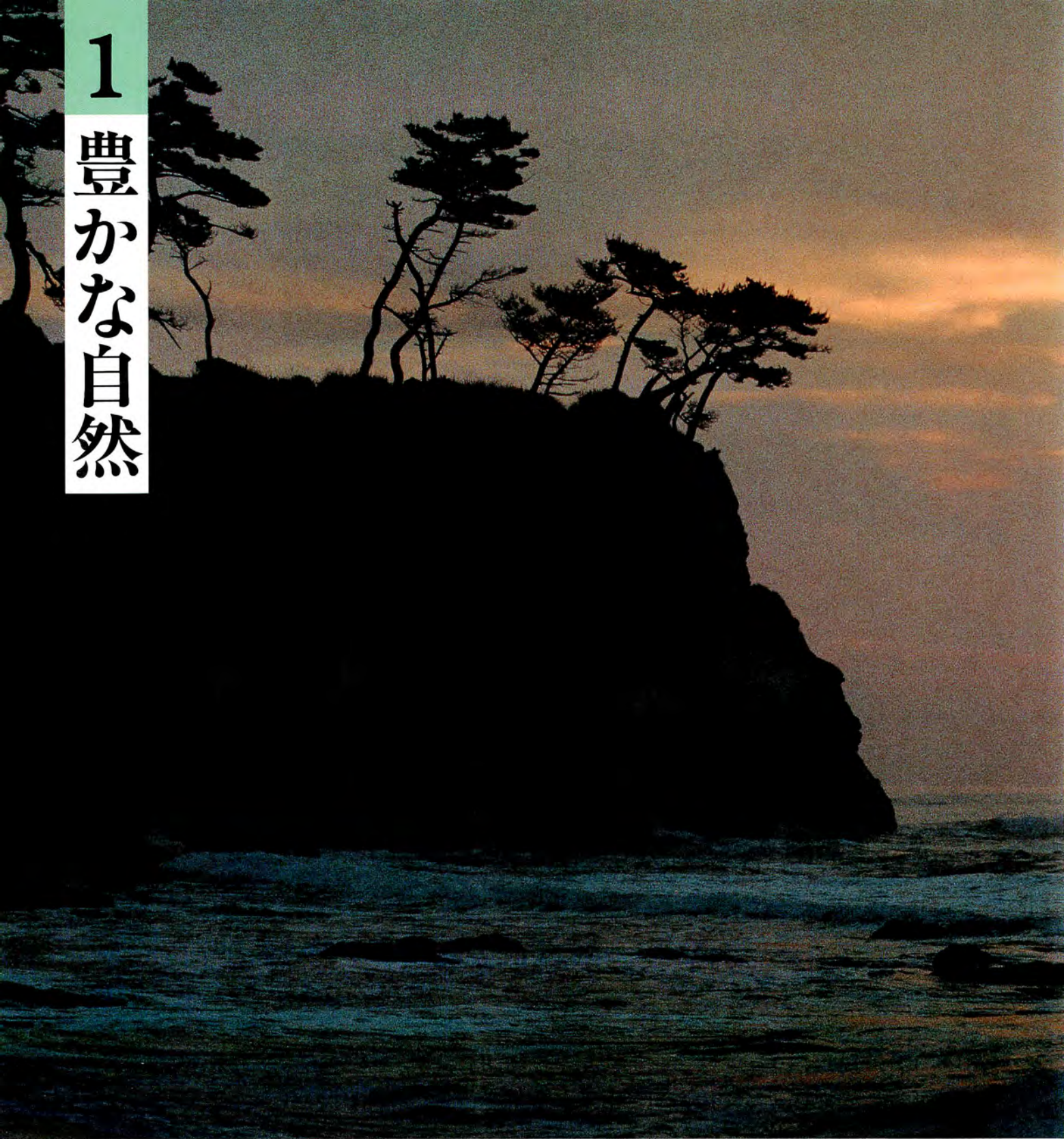
いま高萩市が、常磐自動車道の開通を契機として、21世紀に向けて「海と緑を生かした産業文化都市」づくりをすすめている時に、完成された本書のもつ意義は極めて大きく、先人のすがたと自らの足跡をしのび、明日の繁栄と向上を目指す、市民共通の心のよりどころとしたいと思います。

最後に、編集委員長に就任された柏先生、作山正雄先生をはじめとする編集委員、関係者各位、そして貴重な写真を提供して下さった市民の皆様に、心からお礼を申し上げご挨拶とします。

高萩市長

鈴木 敏夫

1 豊かな自然



▲高萩海岸の日の出（高萩ビーチガーデン前）
海と山、そして温泉の豊かな自然環境に恵まれ、
21世紀のリゾート地として発展が期待されてい
る。 平成元年(1989) 6月撮影



◀C. C. Z.整備計画構想図

高戸海岸では、昭和62年に建設大臣認定を受けたコースタル・コミュニティ・ゾーン(C. C. Z.)整備計画が「シートピア高萩」の愛称で進められている。

豊かな緑と清らかなせせらぎ





◀海に見える花貫ダム

花貫溪谷の花貫ダム上空から市街地を望む。
昭和58年(1983)11月撮影

春



▲市指定天然記念物「松岩寺の山桜」(下君田)
推定樹齢約300年、幹回り約5.6m、高さ約25mの巨木で、毎年見事な
花を咲かせている。 平成元年(1989)4月撮影

秋



▲紅葉でにぎわう小滝沢キャンプ場
花貫溪谷一帯は、春は新緑、夏はキャンプ、秋の紅葉と四季折々に
美しい自然の移り変わりをを見せてくれる。 昭和58年(1983)11月撮影

夏



▲高萩海水浴場

たくさんの家族連れや若い人たちが、歓声をあげながら戯れる姿が見られる。 昭和63年(1988) 8月撮影

冬



▲雪の花貫ダム

冬の花貫ダムはうっすらと雪で冬化粧、陽の光を浴びて美しく輝く。

昭和61年(1986) 2月撮影

2 のびゆく高萩



▲海から見た市街地

常磐自動車道の開通を契機に、21世紀を展望する「海と緑を生かした産業文化都市」の創造に取り組んでいる。 昭和63年(1988)12月撮影



発展する産業

市制施行の昭和29年に現在の日本加工製紙株を誘致し、今日まで安定した成長を続けている。現在は松久保・手綱の両工業団地造成により優良企業が進出、操業中である。

常磐自動車道の開通により、高萩―東京間が約90分で結ばれるようになり、今後もますます発展が期待されている。



▲手綱工業団地

昭和50年(1975)3月に完成、常磐自動車道高萩インター入口に位置しているため、次々と優良企業が進出している。 昭和63年(1988)12月撮影



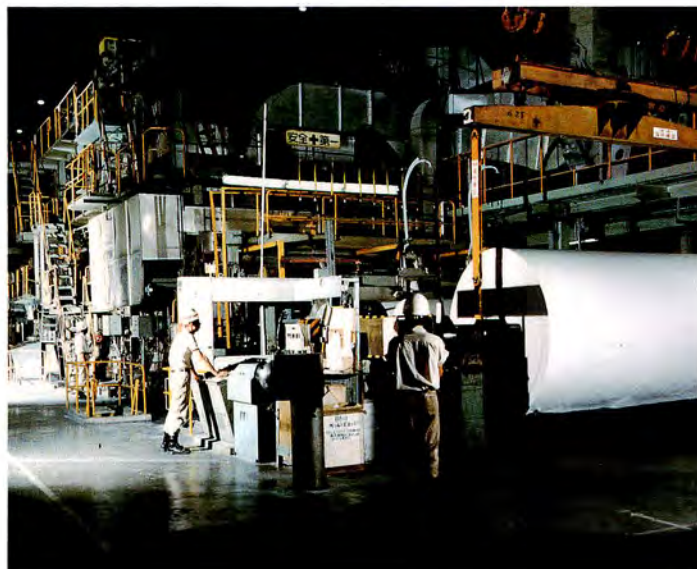
▲松久保工業団地

昭和45年(1970)から造成をはじめ、47年に完成。
国道6号沿いに位置する。

昭和63年(1988)12月撮影

主な立地企業

日本加工製紙(株)	■手綱工業団地
高萩炭硯グループ	新日本鍛工(株)
KDK(株)	(株)安藤鐵工所
KDD(株)	日本鉄粉(株)
■松久保工業団地	日本ジョンソン・
恒和化学工業(株)	アンド・エクリプス(株)
山之内製薬(株)	茨城くみあい培土(株)
生化学工業(株)	(株)杉原製作所
高萩商事(株)	金属鋳業事業団
(株)中村自工深川製作所	(株)東和製作所
(株)永谷園本舗	助川電気工業(株)
大建工業(株)	横島理化産業(株)
	極東製薬工業(株)
	ニダック(株)
	高萩ニッケン(株)
	ネミック・ラムダ(株)
	(株)ミナギ製作所
	(株)中尾アルミ製作所
	(株)東邦工業社
	東京電力(株)



▲日本加工製紙高萩工場

日本でも有数の高級印刷用紙工場で、高級
アート紙およびコート紙などを中心に製造
している。 昭和59年(1984)7月撮影

▼土地基盤整備

農地の高度利用と生産性の効率化を図るため、市内各地でほ場整備を行っている。 昭和61年(1986)6月撮影



▲米平公共育成牧場 昭和59年(1984)4月撮影

▼専門店が並ぶ駅前通り商店街 平成元年(1989)7月撮影



▲愛林記念の森

林業振興のシンボルとして約300年後の23世紀の人々に残そうと、下君田柳沢地区の国有林約16haを愛林記念の森として保存している。

昭和63年(1988)10月撮影



▲常磐自動車道開通式

常磐自動車道は、着工以来約18年ぶりに全線175.5kmが開通、県を縦断する大動脈として地域の活性化が期待されている。

昭和63年(1988)3月撮影



高萩インターと手綱工業団地▶
昭和63年(1988)3月撮影



◀高萩駅前

交通の要衝として整備された駅前には、大型店と専門店化した地元商店が並び、買物客で活況を呈している。 昭和63年(1988)12月撮影

高速化する常磐線▶

常磐線も特急「スーパーひたち」の運行により、高萩―東京間が短時間で結ばれるようになった。写真は、左から普通電車、L特急「ひたち」、特急「スーパーひたち」。

平成元年(1989)4月撮影



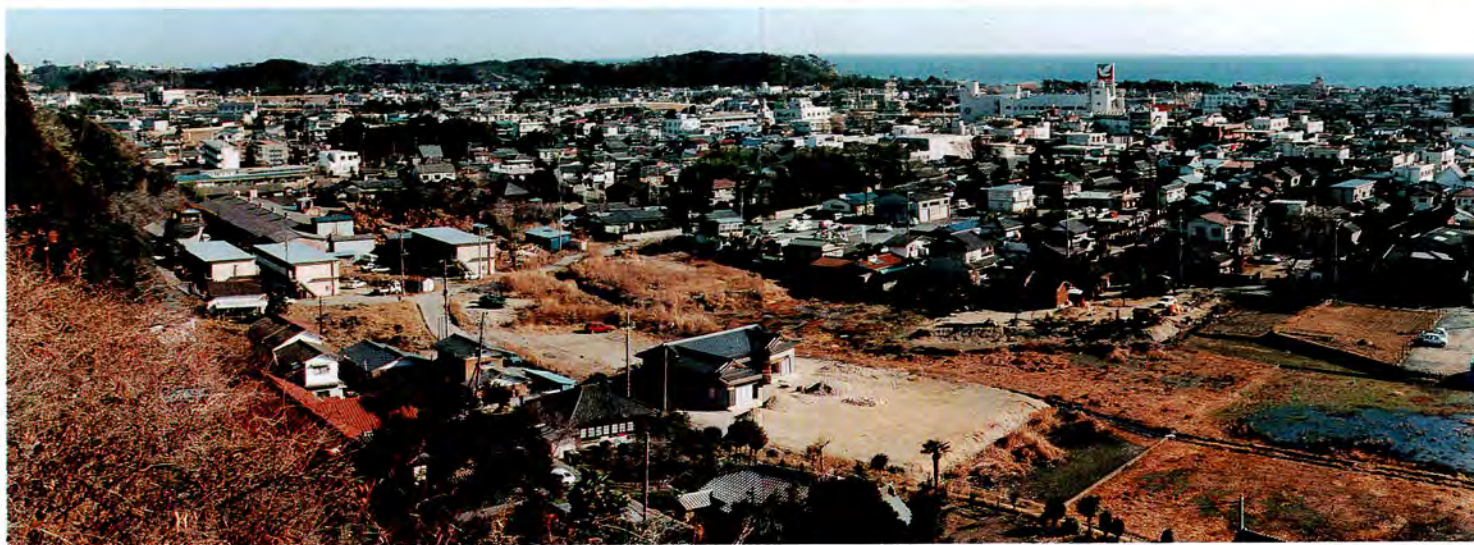
◀農業用道路(若栗―横川間)

地域の開発に主要な役割を果たすとともに、観光ルートとしても期待されている。

平成元年(1989)4月撮影



ひろがるまち





◀高萩市街中心部 昭和62年(1987)10月撮影



▼島名・駒木原の住宅地 平成元年(1989)4月撮影



▲高萩高校から見た市街 昭和64年(1989)1月撮影

●香り高い文化のまち

市民が参加する文化活動には、市民音楽祭や文化祭、中央公民館まつりなどがあり、地域文化の拠点ともいえる文化会館は、香り高い文化の数々を市民に紹介している。また国際交流や友

好都市の交流などを通して、さまざまな活動も行われている。さらに高萩の風土を生かしたすばらしい美術文化作品も生まれている。



▲市民音楽祭

毎年秋には市民音楽祭が開かれ、たくさんの市民が参加している。 昭和61年(1986)11月撮影

高萩国際交流の集い▶

昭和50年から毎年外国人留学生を招いて民泊を実施、お互いの国の生活文化などにふれあい国際親善と相互理解を深めている。

昭和59年(1984)5月撮影





◀文化活動

市内には陶芸をはじめ、たくさんの芸術愛好者がおり、すばらしい作品が生まれている。

昭和62年(1987)撮影



▲友好都市との交流

平成元年4月に山形県新庄市と友好都市の盟約を結び、高萩まつりなど市民ぐるみの交流が続けられている。平成元年(1989)7月撮影



◀山形県新庄まつり (山車パレード)

昭和62年(1987)8月撮影

●元気で暮らせるまち

明るいまちづくりには、よい教育環境が必要。また、市民ぐるみの環境美化活動やボランティア活動も、これからは大切になってくる。スポーツなどを楽しみながら、いつまでも元気で暮らせるまちにしたい。



◀木の香りを生かした松岡幼稚園

松岡幼稚園の木造園舎は、松岡城址や武家屋敷が現存する地域の特性を生かしながら、木のもつ温かさ、柔らかさを通して未来を担う子どもたちの個性や能力を伸ばすため、さまざまな工夫とデザインが取り入れられている。

平成元年(1989) 7月撮影

▼環境美化

毎年、夏のはじめに市民や各種団体会員約3,000人が参加して高萩海岸一帯の清掃奉仕活動が続けられている。松丘高校では、10年以上にわたり海岸清掃を行っている。

平成元年(1989) 7月撮影





◀ボランティア活動

市内にはたくさんのボランティアグループがあり、高校生会もその1つ。市内の福祉施設などを訪問しながら、さまざまな交流を図り、社会福祉について学んでいる。

昭和62年(1987)8月撮影



◀スポーツを楽しむ

高齢化社会を迎え、お年寄りもスポーツやレクリエーション活動を楽しんでいる。

平成元年(1989)3月撮影



▲高萩まつり

昭和46年にはじまった高萩まつりは、市民のふれあいの場として年々盛んになってきている。

昭和63年(1988) 7月撮影



平成元年(1989) 7月撮影▶



▲平成元年(1989)7月撮影

▼市民マラソン大会

新春の市民マラソン大会には多くの市民が参加、沿道からの声援をうけて健脚を競う。

昭和59年(1984)1月撮影





▲お手まき記念の森

全国植樹祭が行われた会場は、現在では森林浴やアスレチックが楽しめる
いいこの森として市民に親しまれている。

昭和62年(1987) 5月撮影



▲安良川八幡宮の爺杉

推定樹齢約1,000年の国指定天然記念物、市内で最も
古い木の1つとされている。

昭和59年(1984) 7月撮影



▲茨城県豊高等職業訓練校（豊工芸美術館）

日本特有の豊文化を生かしたさまざまな工芸品が展示されている。

平成元年(1989) 6月撮影

高萩の 観光10選



▲KDD茨城衛星通信所

市南部の高台には衛星通信で知られるKDD茨城衛星通信所があり、巨大な
パラボラアンテナがひときり目をひく。 平成元年(1989) 4月撮影



▲大心苑

研修や総合スポーツ施設として、県外からもたくさんの人が訪れる。

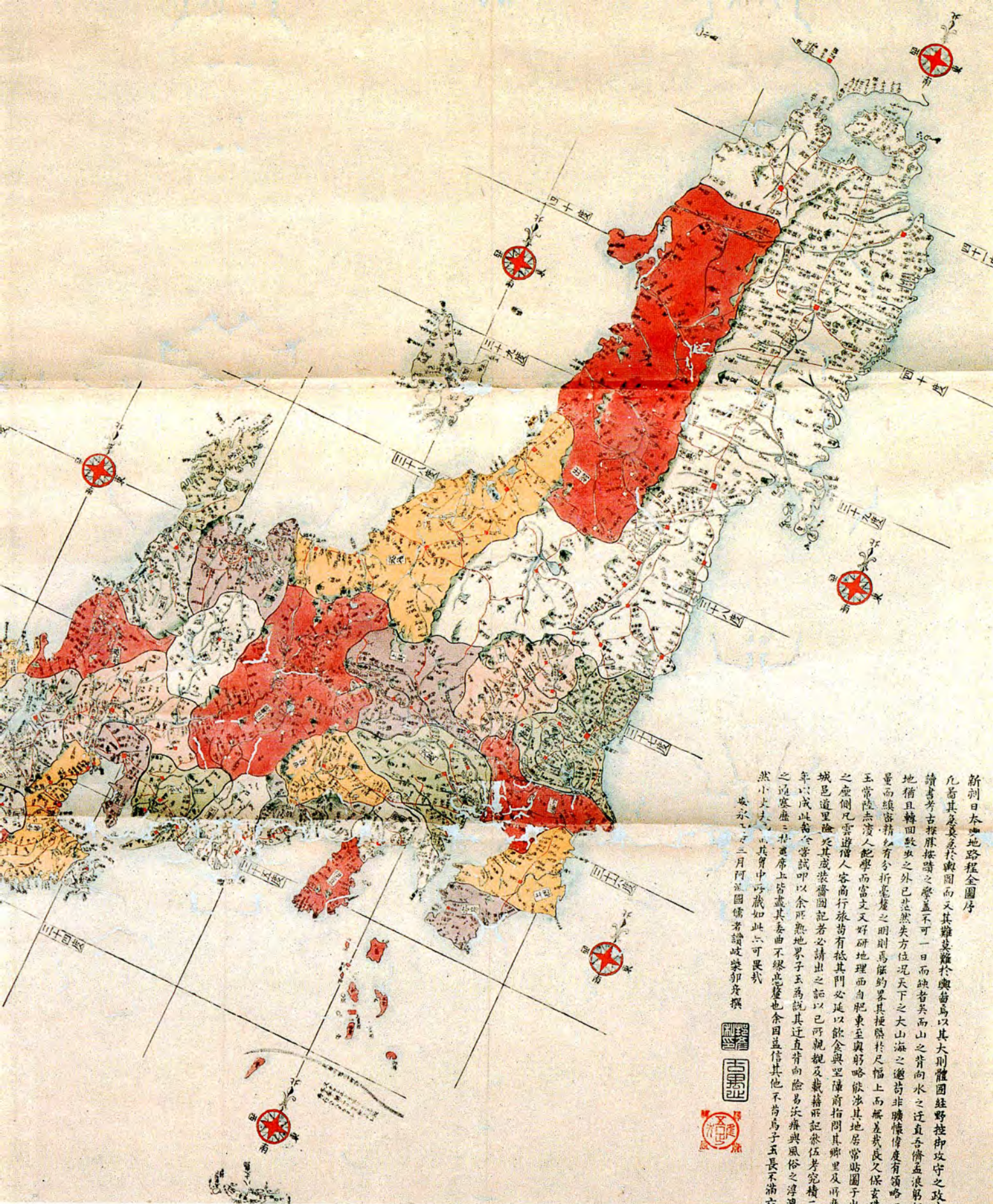
昭和62年(1987)12月撮影

周遊コース 一巡コース(38.5km)

高萩駅	3km 車8分	高萩小浜と万葉の道	3km 車6分	畳芸美術館	3km 車5分	穂積家住宅と城址周辺	8.3km 車18分
大心苑	4.7km 車6分	花貫ダムと名馬里ヶ淵	3.1km 車6分	土岳と小滝沢キャンプ場	2.4km 車5分	安良川八幡宮の森	2.4km 車5分
お手まき記念の森	3.3km 車3分	滝坂広場と滝神社の展望	1.8km 車4分	高萩市役所	2.9km 車8分	高萩駅	



28



新刊日本輿地路程全圖序

凡著其意莫過於輿圖而又其難莫難於輿圖蓋以其大則體國鉅野控御攻守之政
 讀書考古探賸按時之學蓋不可一日而缺者矣而山之背向水之迂直吾儕孟浪躬
 地猶且轉回駁之外已茫然失方位況天下之大山海之遼闊非瞻懷偉度有領略
 量而頗審精細有分折毫釐之明則焉能約畧其梗概於尺幅上而無差忒久保玄
 玉常陸赤濱人紀學而富文又好研地理而自肥東至輿略略欲涉其地居常貼圖于
 之座側凡雲遊僧人客商行旅苟有抵其門必延以飲食與望遠前指問其鄉里及所
 城邑道里險夷其成裝備圖記者必請出之語以已所親視及載籍所記衆伍考究積
 年以成此書今嘗試叩以余所熟地界子玉為說其迂直背向險易沃瘠與風俗之淳
 之澁靡靡之習道席上皆盡其委曲不綴毫釐也余因益信其他不啻為子玉長不滿六
 然小丈夫其胸中可藏如此亦可畏哉

安永七年三月阿波國儒者讀此榮卯彦撰



▲長久保赤水著「改正日本輿地路程全圖」

地理学者長久保赤水是、享保2年(1717)赤浜村(現・高萩市赤浜)の農家に生まれ、青少年時代は下手綱村の医師兼漢学者鈴木玄淳について漢学を学ぶ。安永6年(1777)水戸藩主治保の侍講となって江戸小石川藩邸に勤めるが、後に「改正日本輿地路程全図」「改正地球万国全図」を著し、地理学者として全国に名を知られるようになった。享和元年(1801)85歳で没した。

ふるさとを訪ねて

高萩市は、遠く万葉の歌人が「遠妻し ^{たか} 高にありせば知らずとも 手綱の浜の尋ね来なまし」と詠んだように、歴史と伝統の由緒あるまちである。



松岡藩城廊図▶

松岡城は別名竜子山城と称し、その起源は平安時代といわれる。元和8年(1622)戸沢氏が出羽国へ国替えになると同時に水戸領に編入され、中山信正の居所となった。明治元年(1868)には松岡藩となり、公称2万5,000石を有した。現在の松岡小学校敷地は、図中の練兵場の所にあたる。



▲竜子山城(松岡城)跡

昭和63年(1988)12月撮影



◀穂積家住宅

寛政元年(1789)に建築された建物で、平成元年(1989)に県の有形文化財に指定された。

昭和59年(1984)7月撮影



◀松村任三とその生家

『植物採集及び乾腊法』『日本植物名彙』など著し、大正時代に植物学界の第一人者として活躍。のちに名著『日本植物図鑑』を著した牧野富太郎も彼の門下生の1人だった。

昭和61年(1986)3月撮影

ささら

郷土芸能



▲丹生神社の棒ささら

棒の先に獅子頭を付け、屋台の中で棒を操り舞うもので、全国的にも珍しい。 昭和63年(1988)4月撮影



▲下君田のささら

大塚神社の例祭(毎年9月23日、秋分の日)に五穀豊穡を願って演じられるもので、400年あまりの伝統をもつといわれ、市の無形文化財になっている。 昭和63年(1988)9月撮影

高萩地方の古墳

石滝や赤浜の台地には、円墳や前方後円墳が数多く残っている。これらは6世紀後半から7世紀に造られたものである。多くの古墳が群集していた高萩駅付近から発見された人物埴輪「大耳の男」や、行人塚から出土した「あごひげの男」はよく知られている。



▲あごひげの男の埴輪

両端が突起した頭巾状の帽子をかぶり、左目上の眉のあたりに直径1cmのイボ、あるいはホクロを表すと考えられる円状の粘土が張り付けてある。口は右側の唇が斜め下に曲がり、下唇部からあごにかけてひげを表す条痕がつけられている。(明治30年行人塚古墳出土)



▲大耳の男の埴輪

大耳の男の埴輪は、高萩駅近くの古墳から人骨・金環・管玉などと一緒に出土した。高さ34.5cmの頭部しか現存していないが、笑顔をかきたてた表情と耳が大きくつくられているところに特徴がある。
(明治33年向原古墳出土)



◀小場遺跡

常磐自動車道の建設に伴い、昭和59年(1984)に一部発掘調査を行った。縄文時代中期から晩期(4,500~2,300年前)のものとみられ、配石遺構や住居跡、土坑、溝などの遺構とともに土偶や石剣・石棒、注口土器などが多数出土した。

昭和59年(1984)12月撮影

赤浜4号古墳と発掘（上下2枚とも）▶

昭和36年(1961)の産炭地域指定による松久保工業団地造成に伴い、45年に発掘調査を行った。
昭和45年(1970)8月撮影



▼^{びおばか}琵琶墓古墳

市内最大の前方後円墳で、私たちが古代のロマンへいざなってくれる。

昭和62年(1987)1月撮影



4 産業の移り変わり





▲向洋炭鉱

昭和16年(1941)山一炭鉱が開鉱、27年に宇部興産が買収して向洋鉱業所となったが、34年には独立して向洋炭鉱と呼ばれるようになった。写真中央に坑口が2つ並んで見え、その近くには選炭場とズリ山、貨車による石炭積出場も見える。正面近くに事務所・会館・病院、その周辺に住宅を配置するなど、機能的に結びつけられている。43年に閉山したが、その後は向洋台(住宅)団地として生まれ変わり、炭鉱の面影は見られなくなった。

昭和31年(1956)8月撮影



◀高萩炭鉱

写真は、現在大心苑本館が建っている場所にあったズリ山から東方を見たものである。高萩炭鉱(株)は昭和15年(1940)に設立され、千代田坑、北方坑、手綱坑、関口坑の採掘を一手にまとめ、高萩地方はもとより県北の炭鉱の中心的役割を果たしてきた。しかし30年以降の石油エネルギーへの移行によって、42年2月に閉山を余儀なくされた。この地は現在、スポーツ・レクリエーションセンター「大心苑」に生まれ変わっている。

昭和41年(1966)11月撮影

炭鉱の変遷

高萩地方で石炭採掘がはじめられたのは、嘉永4年(1851)ころといわれる。本格的に会社経営としてはじまったのは明治20年代以降で、24年(1891)に手綱炭鉱、翌年千代田炭鉱が開鉱し、日清・日露の戦争を契機として、日本の工業の発達とともに石炭産業も発展した。

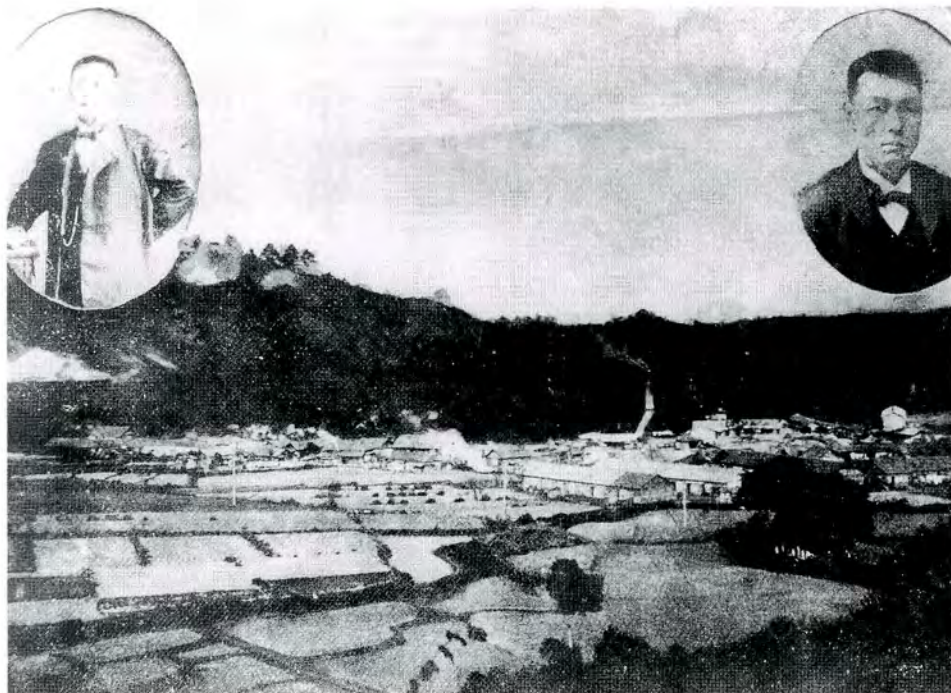


▲関口炭鉱選炭場

関口坑は大正5年(1916)に開かれ、景気が良くなると、選炭場では人手不足を解消するため女子も雇った。写真前列の子どもたちは、まだ小学5、6年生であろうか。

大正5年(1916)ころ撮影





◀清田炭鉱

現在の千代田に、明治24年(1891)に手綱炭鉱、翌年千代田炭鉱が開鉱した。27年には千代田炭鉱と手綱炭鉱が合併、軽便鉄道を敷設するなど近代経営をめざしたが、景気変動と不況の波に経営難をきたし、43年に清田房次郎によって買収されて清田炭鉱と改称した。

大正5年(1916)ころ撮影



◀茨城採炭社宅

千代田炭鉱は大正10年(1921)、茨城採炭㈱に合併される。明治から大正期にかけては経営者がめまぐるしく変わった時代であった。

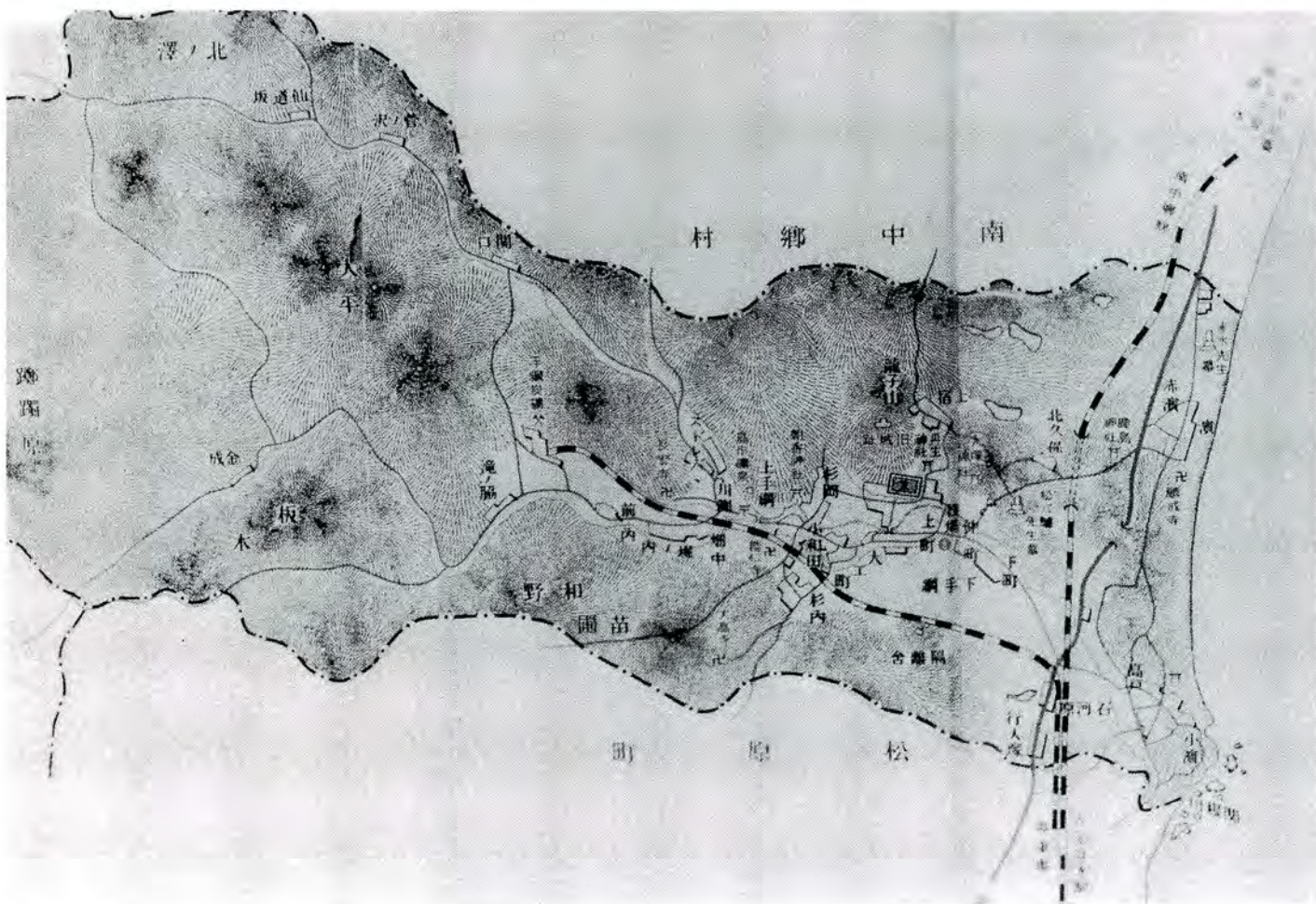
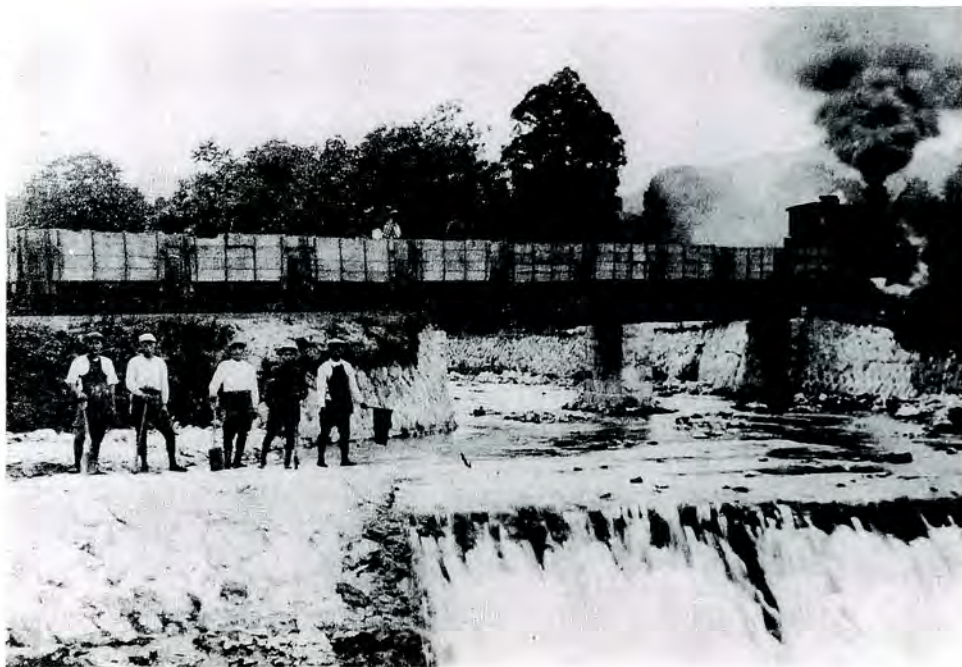
大正10年(1921)ころ撮影

●常磐線の開通と炭鉱

手綱炭鉱軽便鉄道▶

手綱炭鉱は高萩駅開設前年の明治29年(1896)に軽便鉄道を敷き、常磐線開通とともに大量の石炭を京浜地区に輸送した。この写真は、現在の川側付近を千代田へ向かう空車である。

大正12年(1923年)撮影



▲松岡村古地図

松岡村誌に掲載されている大正2年(1913)作成の地図である。北は南中郷村、南は松原町に接している。手綱炭鉱の軽便鉄道は、千代田から川側、現在の土木事務所、枅形を経て駅と結ばれていた。

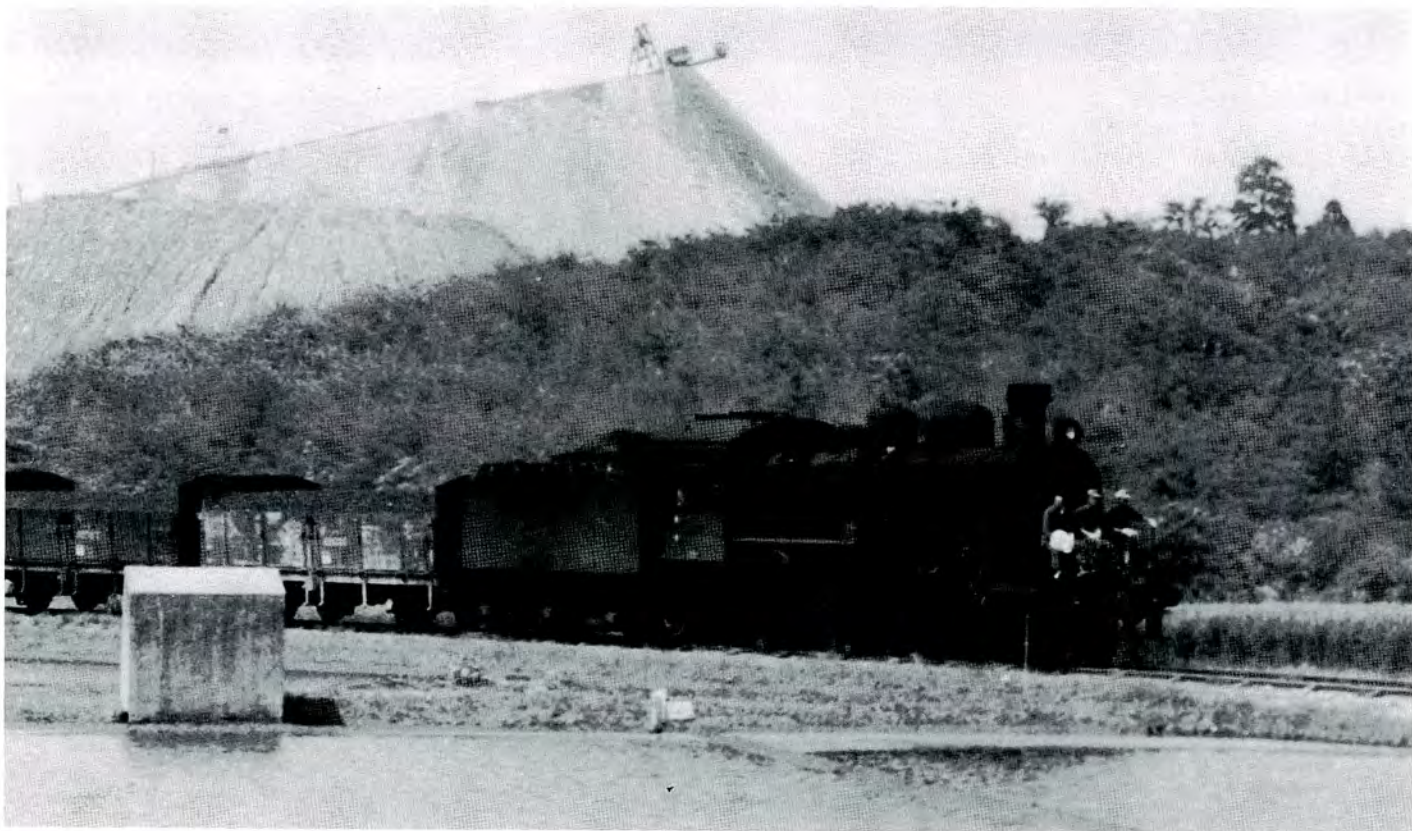


◀向洋炭鉱の石炭積み出し

向洋炭鉱から石炭を積み出し、駅へ向かうところ。この積み出し石炭ポケットは、現在の向洋台団地の県道沿いにあったが、今は埋め立てられてその面影はない。昭和37年(1962)ころ撮影

▼石炭を運ぶSL

駅へ向かう石炭列車。機関車の前には3人の見張りが乗り、レールの点検や子どもに注意しながら時速30～40kmで走った。昭和20年(1945)に常磐線軌道と同じレールになり、大量輸送に役立ったが、炭鉱閉山とともに45年に廃止された。昭和37年(1962)ころ撮影

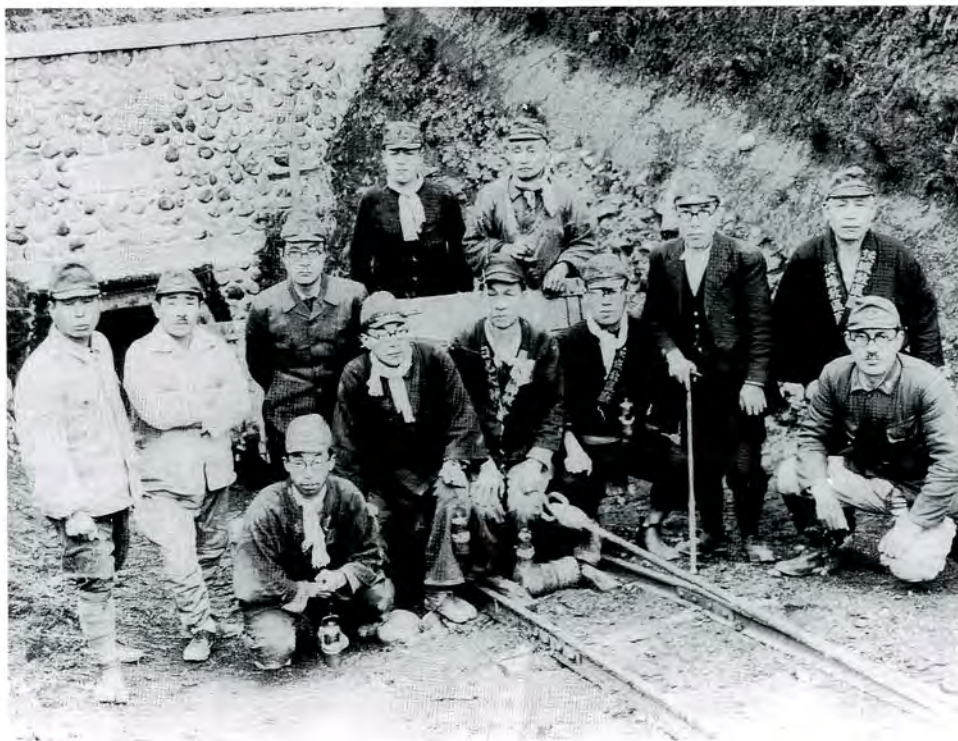


●戦時体制下の炭鉱



▲千代田炭鉱坑内の勤労報国隊

戦中、戦後とも、石炭の増産は国策として進められた。勤労報国隊として炭鉱に来ていた人たちの中には、食料の特配もあったため、戦後もそのまま住みついた人がいたという。写真から女子も坑内作業に従事していたことがわかる。昭和18年(1943)ころ撮影



山一炭鉱と勤労報国隊▶

山一炭鉱は太平洋戦争が始まった昭和16年(1941)に開鉱した。写真は、戦争が激しくなるにつれ、増産体制の下に勤労報国隊として動員された人々たちである。労務課長が軍服姿で生産の指導にあたっていた。昭和19年(1944)撮影

●戦後の炭鉱の繁栄



◀ダイナマイト穴掘り作業

地下300mの坑内で、岩盤に穴を開けてはダイナマイトを仕掛け、岩や石炭を崩しながら前進する。昭和31年(1956)8月撮影

▼炭鉱の盆踊り

戦後の炭鉱好景気によって労働者にもゆとりが生まれ、盆踊りや運動会が炭鉱あげで盛大に行われるようになった。昭和26年(1951)撮影



▶向洋炭鉱賃金要求貫徹集会

昭和27年(1952)に宇部興産が山一炭鉱を買収し、その後向洋炭鉱となったが、労働組合の組織化に伴い、労働者の生活改善・向上をめざす賃金交渉ストが盛んに行われた。

昭和27年(1952)撮影



▲島名坑内に入る人車

人車・炭車は地上の巻上機を操作して上下させる。坑口の上に「坑内禁煙」「保安第一」の看板が見えるが、坑内で一番怖いのはガス爆発と出水、それに落盤であった。

昭和31年(1956)8月撮影



◀第29回メーデー

生活向上と賃上げ闘争を併せたため、働く女性もデモに参加するようになった。

昭和31年(1956)5月撮影

▼島名坑の坑内見学会

夫の働いている坑内はどんなところだろう、と坑内見学会が開かれた。

昭和35年(1960)撮影



給料日▶

汗を流し、命がけの坑内作業で得た賃金。この金のために毎日働いてきたのだ、という喜び。「今日はいまいものでも……」と考えているのかも知れない。昭和30年(1955)ころ撮影



▼給料日の出店

炭鉱の給料日をねらって露店が立ち並ぶ。主婦たちはこの日を待ちわびたかのように日用雑貨を買い、子どもたちにとっても食べ物やおもちゃを買ってもらう楽しい日であった。

昭和30年(1955)ころ撮影





◀高萩炭鉱のズリ山

炭鉱の象徴であるズリ山は、高くなるほど炭鉱の繁栄を表していた。手前に積まれた木は坑内の支柱にする坑木である。このズリ山は閉山後整地され、下の写真のように市営野球場となった。 昭和41年(1966)5月撮影



▲市営野球場の建設

高萩炭鉱は閉山後ただちに経営転換を図り、炭鉱跡地は大心苑として生まれ変わった。ズリ山はすべて崩され、写真正面の高台に本館を建設。100万㎡の広大な土地にスポーツ施設や研修施設をつくった。手前に見えるのはズリ山跡にできた市営野球場である。昭和47年(1972)2月撮影

馬市から牛市へ

江戸時代にはじまった馬の放牧は、昭和初期には高萩地方の主要な産業に成長した。これは当時、馬が農耕馬や軍馬として数多く利用されたため、飼育が盛んになるにつれて馬市も盛大になり、市のある日には露店・サーカス・演劇などが開かれて多くの人々でにぎわうようになった。

●馬市風景



▲せり市

昭和30年(1955)ころまでは馬のせり頭数も多くにぎやかな馬市であった。

昭和30年(1955)3月撮影



昭和初期の馬市▶



▲茶わん酒での別れ

茶わん酒で仔馬との別れを惜しむ姿もみられた。 昭和30年(1955)3月撮影



▲仔馬との別れ 昭和35年(1960)3月撮影

馬市で、高萩小唄
親馬唄
春の高萩
おーおーおー
おーおーおー

●高萩小唄は昭和6年(1931)ころに作られ、まちにはこのメロディーがあふれた。



馬市での語らい 昭和35年(1960)3月撮影▶

●駅周辺と売られていく馬



◀馬市の看板が出て、駅も遠くの町や村から見物に来た家族連れでにぎわいをみせている。(3枚とも) 昭和30年(1955)3月撮影



昭和30年(1955)3月撮影

昭和30年(1955)3月撮影



◀市場でせり落とされた馬は、駅前通りを新しい飼い主に引かれて貨車に乗せられていった。
昭和30年(1955)3月撮影

▼山の中で育った馬が、はじめて見る駅前のにぎわいにおびえるのを、なだめながら引いて行くのがつらかったという。
昭和30年(1955)3月撮影



●なつかしい馬市の出店

馬市は関東・東北地方一円から仲買人が集まり、連日にぎやかであった。農家の人々はこの日を待って、クワ、スキ、カマなどの道具や日用品などを買い求めた。また子どもたちにとっても、サーカスを見たり、金魚すくいやおもちゃを買ってもらうなど、何より楽しい日であった。

▼農業用品、日用品を求める人たち
昭和30年(1955)3月撮影





▲金魚すくいを楽しむ子どもたち
昭和30年(1955)3月撮影



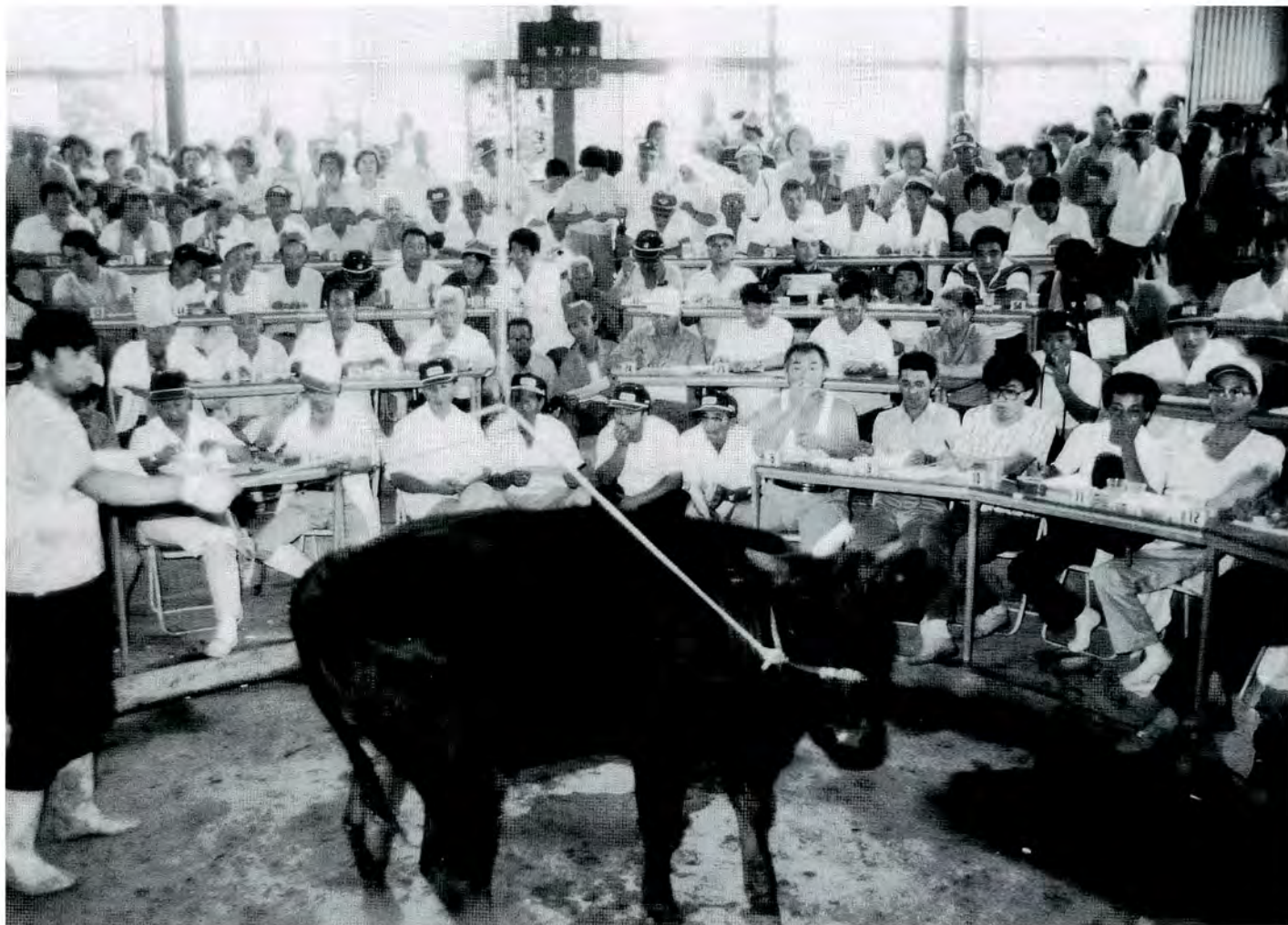
▲見世物に集まる人々 昭和30年(1955)3月撮影



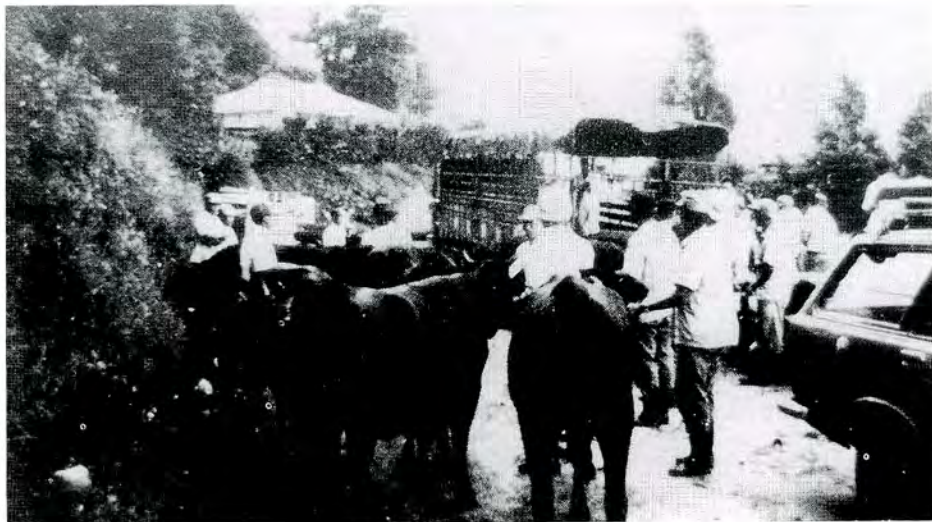
▲馬市見物の人々 昭和30年(1955)3月撮影

●さよなら牛市

昭和35年(1960)に黒牛250頭を導入して以来、年々飼育頭数が増え、馬市に代わって牛市が開かれるようになった。しかし、年ごとに盛大になり市民から愛されていた牛市も、市場の大型化のため高萩家畜市場が大宮家畜市場に合併されることになり、62年8月の牛市が最後となった。



▲最後の仔牛のせり市風景 昭和62年(1987)8月撮影



◀黒牛導入 昭和35年(1960)5月撮影



◀牛と子どもたち 昭和47年(1972)11月撮影

最後の牛市を終わって 昭和62年(1987)8月撮影▶



▼手塩にかけた自慢の牛 昭和62年(1987)8月撮影



その他の産業



▲製塩工場

明治中期から近代的な製塩業が営まれるようになり、栃木県方面まで販路をもっていた。石炭を燃料にしたので、低価格で製塩できたという。

昭和初期撮影



▲秋山レンガ工場跡

県内で最も早くから開始されたレンガ製造は、時流にのり東京方面に販売していたが、その後の建築様式の変化などにより次第に衰退した。

昭和55年(1980)1月撮影



▲昭和人絹高萩工場

昭和11年(1936)に昭和人絹(株)が工場を建設、操業を開始したが、その後、戦争などにより何度か経営がかわった。 昭和11年(1936)撮影



▲日本加工製紙高萩工場

昭和29年(1954)、昭和人絹のあったところに高萩パルプ(株)が工場を建設、操業をはじめた。現在は日本加工製紙(株)高萩工場と改称され、市の基幹産業となっている。
昭和63年(1988)1月撮影



◀植林する大能婦人会

婦人会の資金づくりの1つとして、国有林の植え付け作業もした。苗の入ったビクを背負い、ビクのわきから1本ずつ出して急斜面に植えていった。昭和40年(1965)ころ撮影



◀伐採風景(上下2枚とも)

高萩の林業は、戦前から盛んであったが、戦後は建設資材としての木材需要が急増し一段と活発になった。昭和43年の高萩営林署登録の業者の4割以上が市内の木材業者であったことから、林業の隆盛がうかがえる。

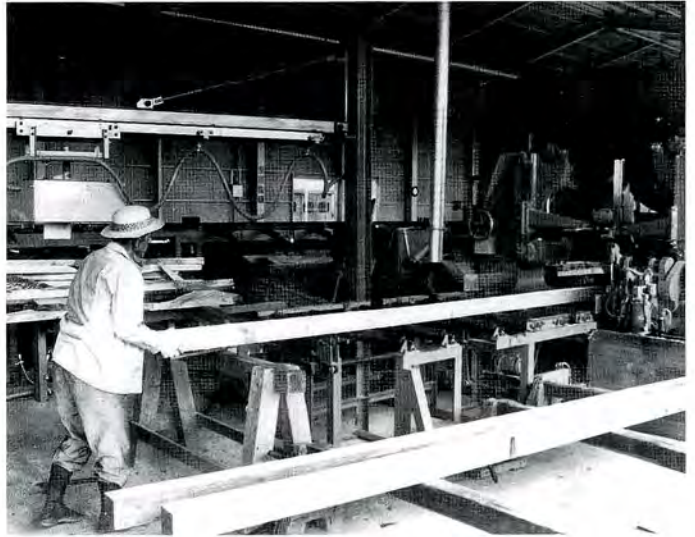
昭和39年(1964)10月撮影



▲しいたけ栽培

「しいたけ」や「なめこ」などのきのこ栽培も盛んで、市場へも出荷している。

平成元年(1989) 8月撮影



▲製材所風景

市域の約8割が山林である高萩市は、製材所も多く、優良材を産出している。

平成元年(1989) 7月撮影



▲木炭の生産

福平地区では、木炭の増産を図るため、県や林業指導所から「^{ろがわ}路川式改良窯」を用いた製炭技術の指導を受けていた。 昭和29年(1954) 8月ころ撮影



◀田植え

戦時中の田植えは、男子の出征により婦人中心の共同作業であった。ほとんどが手作業のため、長時間労働が常であった。

昭和17年(1942)撮影

安良川新町付近の荷馬車▶

戦後になるとゴムタイヤの馬車が使われるようになり、木材や木炭などを運んで生計をたてる人も多くなった。昭和30年(1955)ころ撮影



◀たい肥運び

秋の麦まき時などには、馬に「荷ぐら」をつけ、両方の「タレビク」にたい肥を入れて運んだ。

昭和13年(1938)10月撮影



◀桐下駄製造

下駄の生産が盛んだったころには、本町でも下駄の素材を積み重ね、乾燥させる光景が見られた。昭和28年(1953)ころ撮影

松岡農協パン焼き工場▶

松岡農業協同組合では合併前からパン工場をもち、学校給食などにも利用されていた。

昭和30年(1955)ころ撮影



5 生活文化の移り変わり





▲高萩町の焼け跡

昭和20年(1945)7月19日の焼夷弾攻撃で焼失した町も、終戦後1年余り過ぎたこのころになると、焼け跡にバラックが建ちはじめた。21年の12月には戦災復興事務所が設置され、本格的な復興事業が開始された。罹災戸数572戸、罹災人数2,372人(死者2人)で人口の16.01%にあたった。

昭和21年(1946)10月10日撮影

町並み

●高萩町の焼け跡

昭和20年(1945)7月19日の夜、米軍機による焼夷弾攻撃を受け、春日町と本町・大和町の一部が焼失し死者2人を出した。ここに掲載した写真は、空襲翌日に現在の市川スタジオ前から各方向を撮影したものである。



写真後方に見える建物のあたりが本町通り▶



◀手前、市川写真館跡から駅前通り方向を見る。
後方左側から松屋洋装店、藤枝印刷所、右方
には日本耐火工業の煙突が見える。



●市制施行当時の町並み

市制施行当時の高萩駅と駅前ようすである。高萩駅は明治30年(1897)の開業当時とほとんど変わっていない。駅前通りを歩く人たちも着物やモンペ姿が多く、ジャリ道には自動車も見られず、ひろびろとしていた。



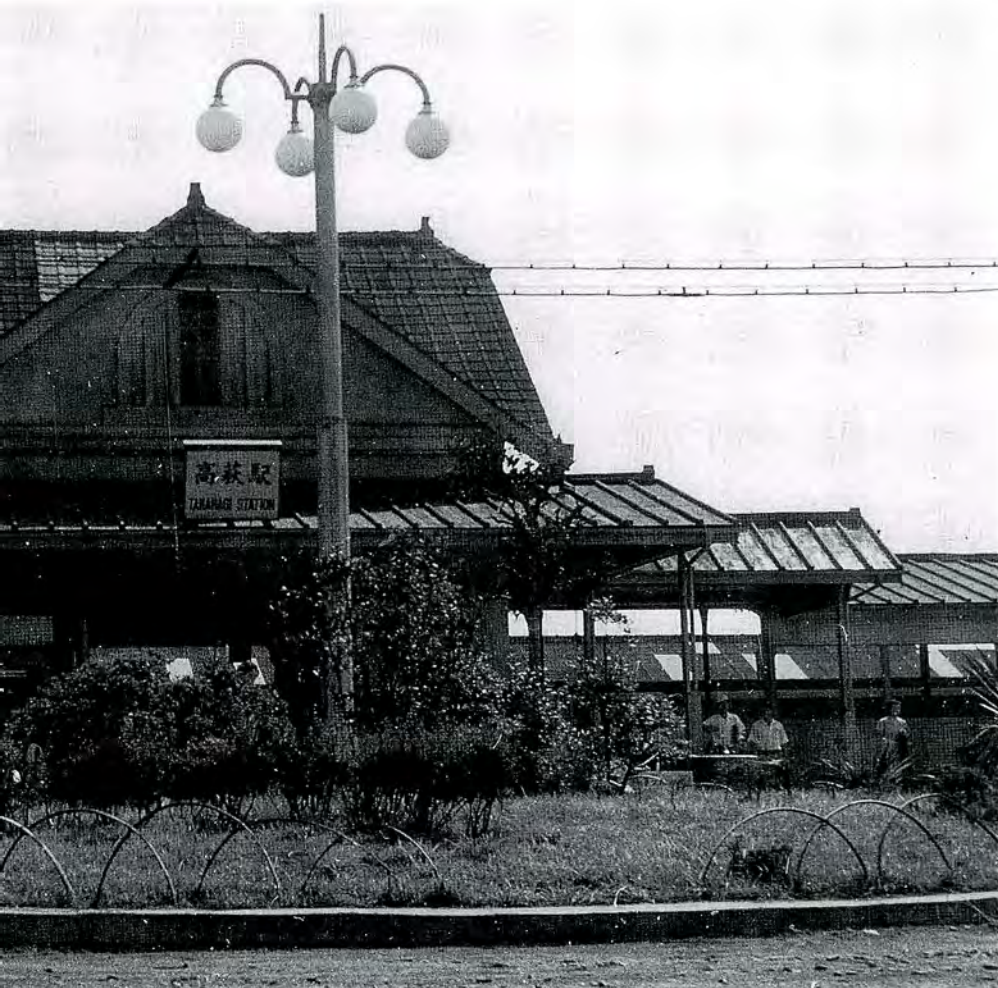
▲木製の公衆電話ボックス(駅前) 昭和35年(1960)ころ撮影



▼駅前通り(旧高砂町) 昭和29年(1954)8月撮影



◀高萩駅 昭和29年(1954)8月撮影



▼駅前通り(旧旭町) 昭和29年(1954)8月撮影



市制施行の年の市内のようす。当時は自動車の数も極端に少なく、交通手段はもっぱら運行回数の少ないバスと自転車であった。荷物については主に荷車・リヤカーが使われ、大きなものは馬車で運んでいた。

▼本町通り(旧北町) 昭和29年(1954) 8月撮影



▲本町通り(旧仲町) 昭和29年(1954) 8月撮影



▲仲の町通り 昭和29年(1954)8月撮影



▲昭和通り(旧南町) 昭和29年(1954)8月撮影



◀川側（松岡郵便局）周辺

閑散とした風景ながら、長屋造りと道に沿って玄関口を構えたこれらの家から、当時のにぎわいを思い起こさせてくれる。

昭和29年(1954)8月撮影

▼北方郵便局周辺

右に見えるバスの後方が北方郵便局。高萩駅からのバスの終点にあたり、交通の要所であった。鳥曾根・大能方面は徒歩だけが頼りであった。

昭和29年(1954)8月撮影





▲^{ますがた}栢形

現在この写真の後方には高戸大橋が架かり、ようすが一変している。写真左側の民家には、懐かしいつるべ井戸が見える。右側の倉庫は松岡農協のもので、現在もそのまま残っている。
昭和29年(1954)8月撮影

松岡町役場前通り(松岡農協付近)▶

茅ぶきと杉皮屋根の民家などが見える松岡町役場付近である。3カ月後に「高萩市」誕生を控えて忙しいころであったろう。

昭和29年(1954)8月撮影



▼昭和初期の川側周辺

穂積酒造店発行の絵ハガキである。写真右中央の穂積家では、当時「松の月」の銘柄で清酒を造っていた。 昭和5年(1930)12月撮影



●市制施行10周年ころの町並み



▲高萩銀座街
木造建物の低い建物ばかりであった。
昭和35年(1960)ころ撮影



昭和35年(1960)ころ撮影▶



◀市制施行10周年を祝う行列

市制施行10周年を祝った行列が、春日町にあった路切を通して東地区へ向かうところである。写真奥に見える大きな建物は松風館。
昭和39年(1964)撮影

▼本町通り

道路沿いに見える白い建物は常陽銀行高萩支店。ほかに大きな建物は見られなかった。
昭和35年(1960)ころ撮影



思い出の建物



▲高岡村役場

明治22年(1889)に5村1新田が合併して高岡村が誕生、現在の若栗郵便局近くに村役場が建てられた。写真は、大正14年に行われた第2回国勢調査の際の役場前での記念写真。 大正14年(1925)10月撮影



◀多賀郡役所(現在の県合同庁舎敷地)

明治29年(1896)に建てられた郡役所も、郡制廃止の大正15年(1926)以降は、町村会館として講習会や各種会議に利用された。写真は松原署管内理髪講習会での記念写真である。

昭和3年(1928)10月撮影

▼高萩町役場

高萩町役場前での国勢調査関係者の記念写真である。この建物は市制施行後も新市庁舎ができるまで使われ、現在は商店(ダイボシ)となっている。昭和15年(1940)撮影



▲松岡町役場

松岡町は昭和3年(1928)4月17日に町制施行。人物の後ろにわずかに玄関が見える。

昭和10年(1935)撮影





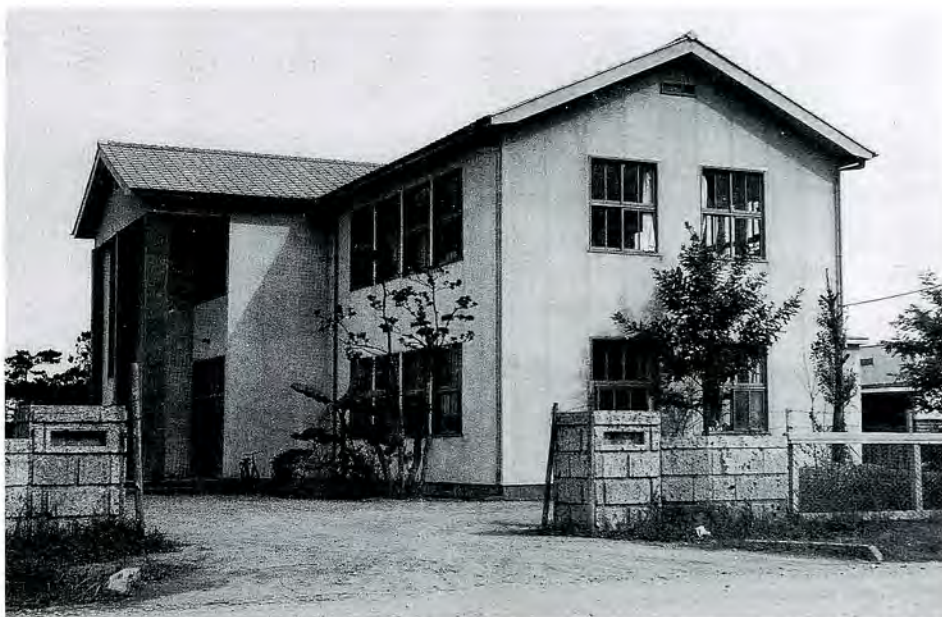
◀高萩警察署

設置当初は現在のNTT高萩支店あたりにあったが、昭和28年(1953)に東本町の国道沿い(現在の消防署)に移転、その後56年に現在地に再移転した。 昭和29年(1954)8月撮影

高萩土木事務所▶

東本町の国道沿いにあった土木事務所。昭和53年(1978)4月には、下手綱の現在地に移転した。

昭和29年(1954)8月撮影



◀高萩税務署

昭和42年(1967)に日立市へ移転するまで、県北の主要機関であった高萩税務署。跡地は高萩陸橋わきの市営駐車場となっている。

昭和29年(1954)8月撮影





◀高萩営林署

本町にあったところの高萩営林署。この地は現在、第一幼稚園になっている。

昭和29年(1954)8月撮影

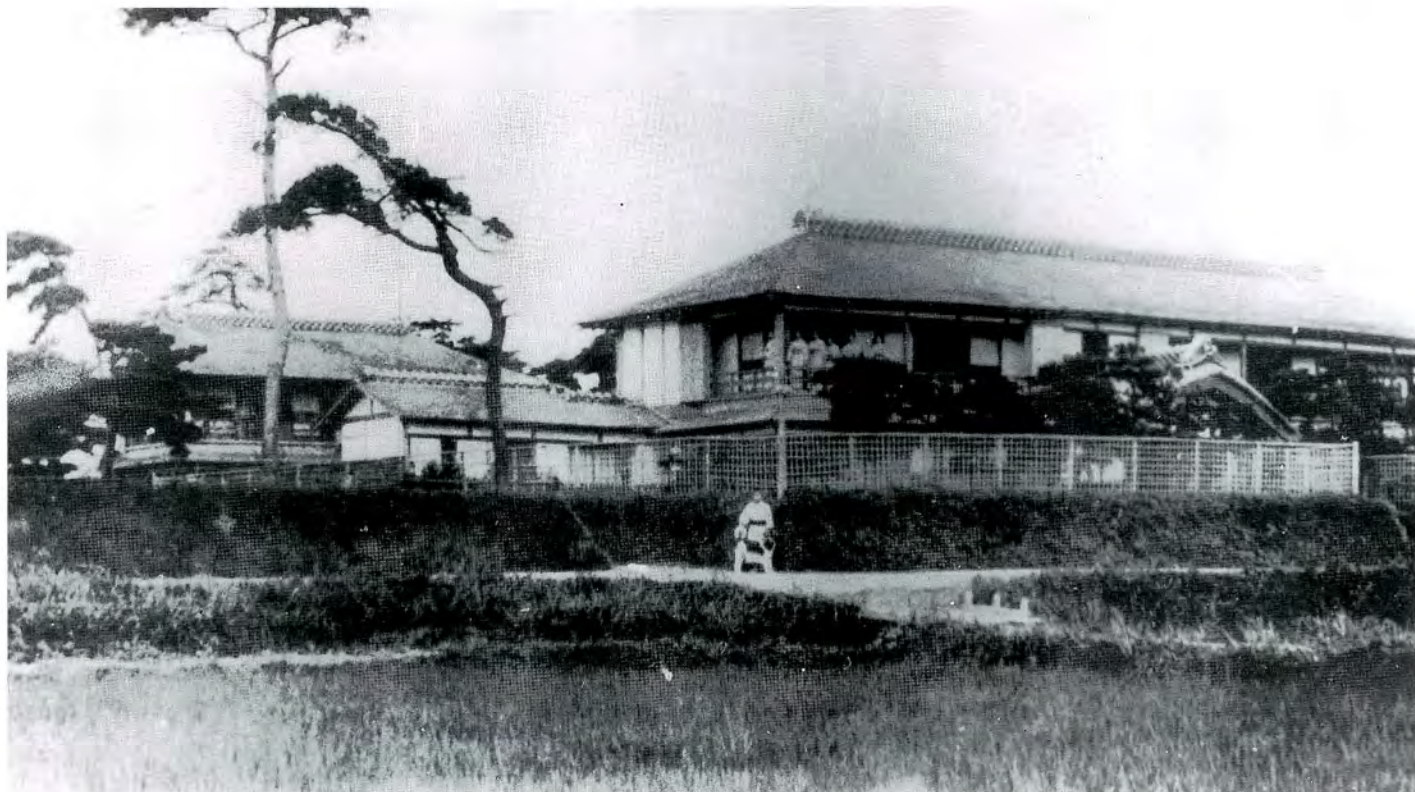
▼上手綱郵便局

大正時代の上手綱郵便局で、川側橋の北側にあった。大正時代撮影



▲高萩郵便局

明治末期に建てられた局舎で、約60年使われた後、昭和41年(1966)7月に現在地に移転した。もとの局舎は、現在も飲食店(あづま鮎)として使われている。昭和29年(1954)8月撮影



▲松風館

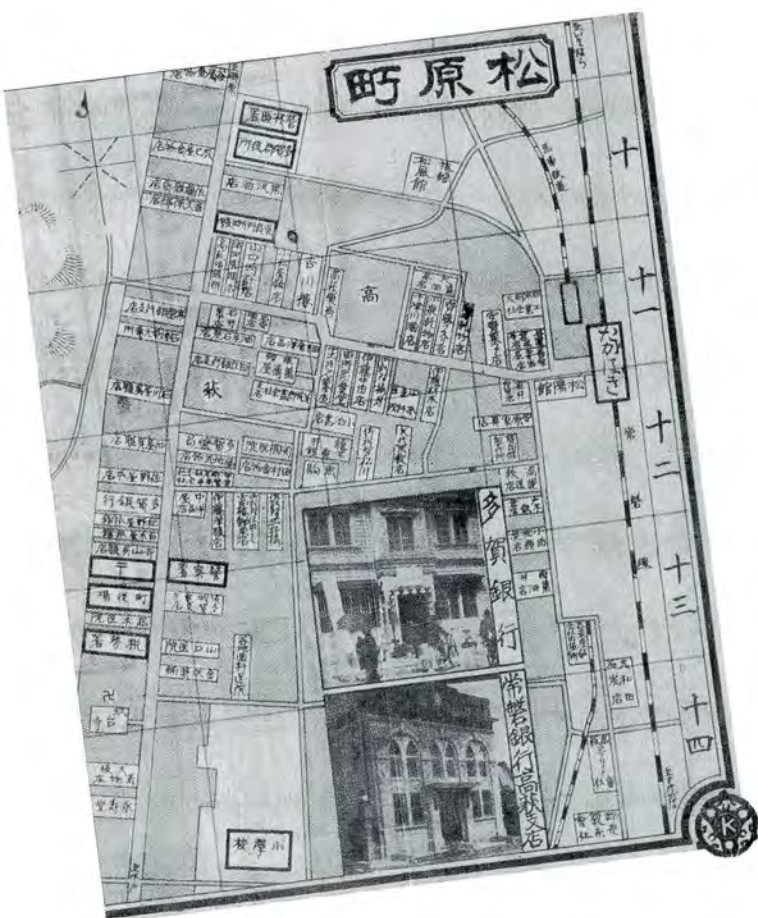
現在の春日町公園のあたりにあった割ぼう旅館。周囲には松林や田畑が広がり、太平洋を望むことができる、当時としては高級な旅館であった。

大正初期撮影



▲ほうらい蓬萊館

現在のビーチガーデンから高戸にいたる松山の上にあった明治後期の蓬萊館で、横山大観・岡倉天心・野口雨情らの文化人をはじめ、政財界人も多数利用した。 明治後期撮影



▲大正時代末期の松原町



▲白木屋

隣の松野屋とともに宿場町として栄えたころの名残を感じさせる建物であったが、近年、近代的な建物に建て替えられた。

昭和50年(1975)12月撮影



▲ヒカリ座 昭和29年(1954)11月撮影



▲高萩市公会堂

市内には、ヒカリ座、中央劇場、高萩劇場の3軒の映画館があった。高萩劇場は、開明座→高萩劇場→高萩市公会堂と名称を変え市民の娯楽の中心の施設であったが、火災のため焼失、現在は市営駐車場となっている。

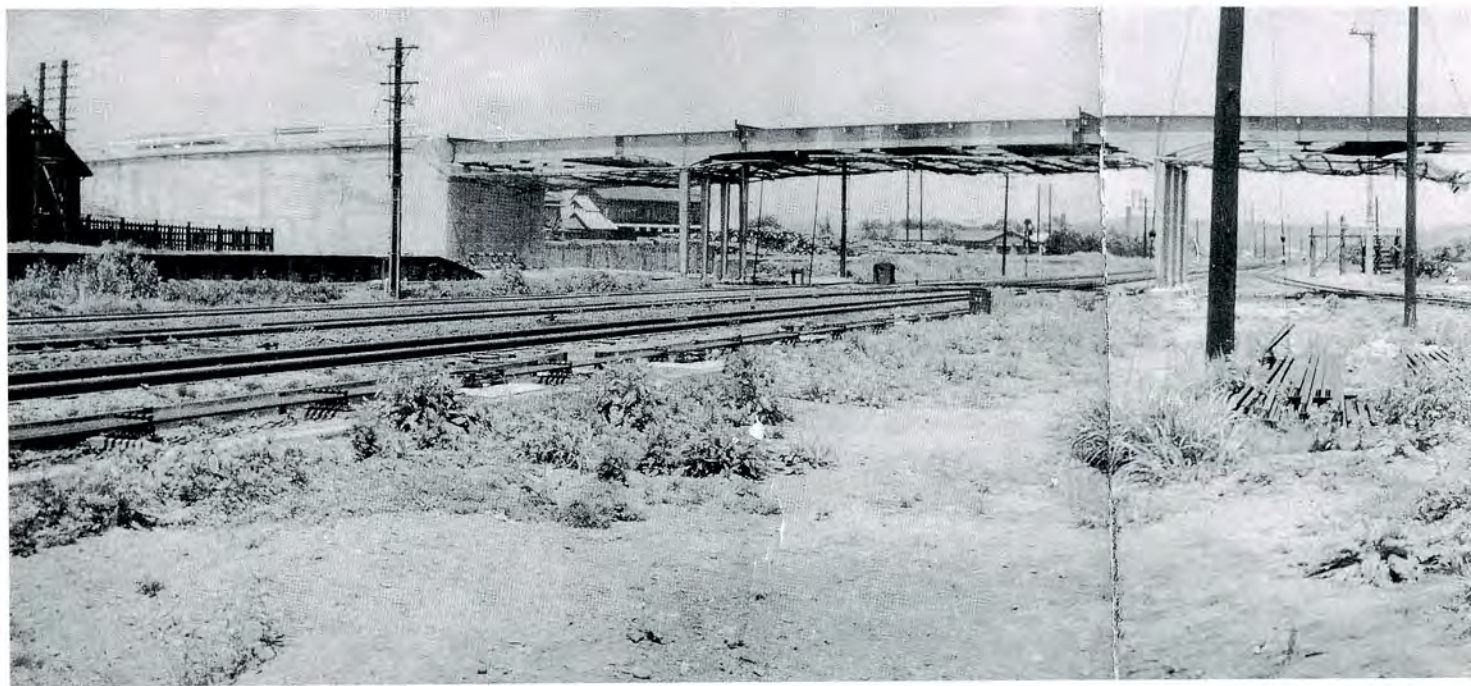
◀高萩劇場 昭和29年(1954)11月撮影

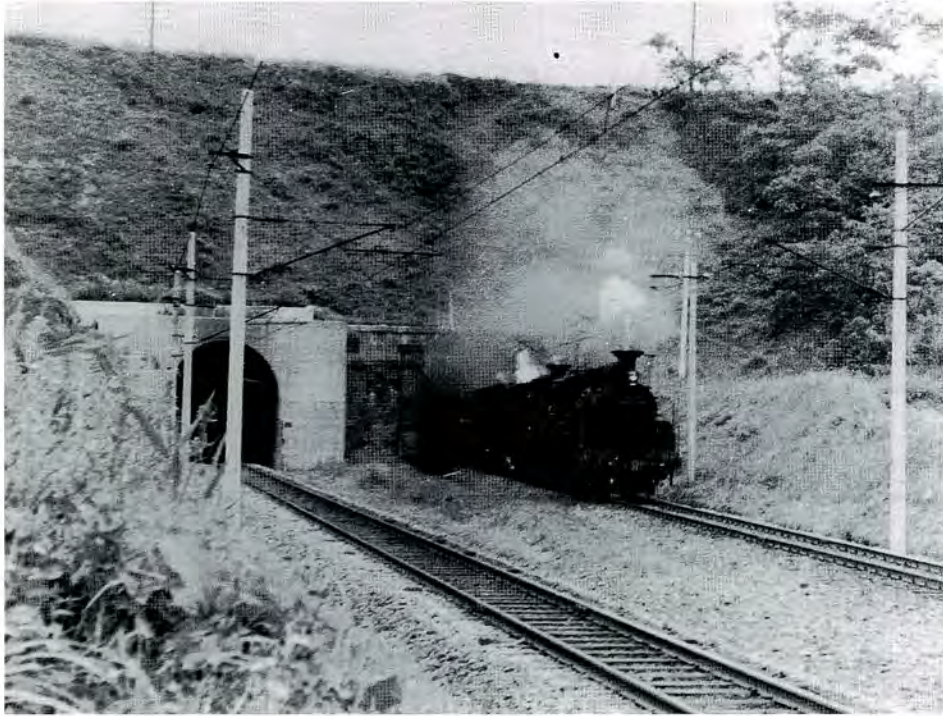
交通

●蒸気機関車から電車へ



▲にぎわう高萩駅
馬市などがあると、近隣市町村からも多くの人々が集まった。昭和30年(1955)撮影

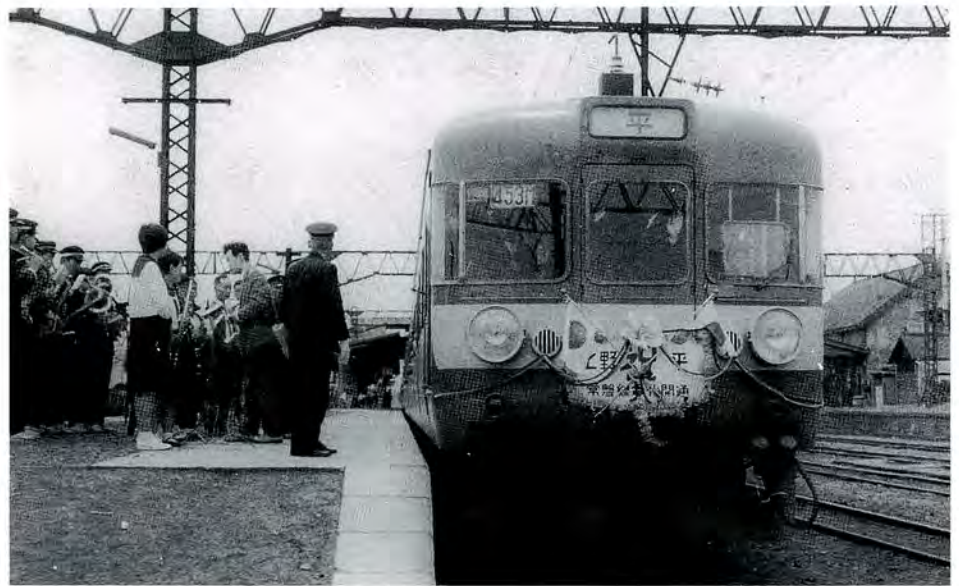




◀赤浜トンネルを出るC50重連

赤浜トンネルの途中で上り坂が終わるため、蒸気を止めて惰性で高萩駅へ入ってくる。

昭和36年(1961)ころ撮影



▲電車開通

鉄道は急激な流通経済の変化を反映して、それまでの蒸気機関車から電気機関車へと高速化の時代を迎えた。電化により上野駅までは、約1時間短縮された。昭和37年(1962)10月撮影



◀高萩陸橋

高度経済成長とともに訪れた自動車普及の波は、道路整備に急激な拍車をかけた。この陸橋は昭和35年12月に完成し、国道と市内の道路との一体化が図られた。昭和35年(1960)撮影

●道路と橋



▲花貫橋

日立方面から高萩市街へ入る唯一の道であった旧国道6号に架かる花貫橋は、昭和3年(1928)にコンクリート橋になった。しかし、車両の重量化、大型化に伴い老朽化したため、現在新しい橋を建設中である。

昭和54年(1979)7月撮影



▲磯馴橋

海水浴や磯遊びが盛んに行われたころ、必ず通る橋が関根川に架かる磯馴橋であった。現在は少し上流に新磯馴橋が架かり、ビーチガーデンや高戸方面への通行の重要な役割を担っている。 昭和24年(1949)ころ撮影



▲赤浜^{ずいどう}隧道と国道6号

右のトンネルは旧国道6号にあった赤浜隧道、左のトラックが走っている方が現在の国道6号である。隧道は土盛りして閉鎖され、人々から忘れ去られようとしている。 昭和44年(1969)9月撮影

●自動車

小型三輪自動車▶

自動車産業の興隆とともにいろいろな車が登場した。なかでも小型三輪自動車は便利な車としてもてはやされた。 昭和52年(1977)10月撮影



▼高萩陸運

自動車の少ない時代の運送業は、華やかな職業だった。高萩陸運には運送用トラックのほか、写真のようなフォード社製乗用車もあった。 昭和29年(1954)8月撮影





▲日立電鉄高萩営業所

市内の主要道路交通の担い手だったのが日立電鉄。営業所は駅前の時もあったが、写真は現在地に移ってからのものである。

昭和29年(1954)8月撮影



▼国鉄バス高萩営業所

日立電鉄と同じく市民の足となって活躍した国鉄バス(現・JRバス関東)。突き出たボンネット、可倒式方向指示器などが当時をしのばせる。

昭和29年(1954)8月撮影



生活文化・行事



▲女子青年団の勤労奉仕

戦争の長期化に備えて、防空壕構築の勤労奉仕を行う高萩町女子青年団。昭和20年(1945)には、空襲も激しくなり、高萩町内だけでも41か所の横穴防空壕が掘られた。

昭和18年(1943) 8月撮影



海水浴▶

昭和初期に高戸の小浜海岸で海水浴を楽しむ人々の姿。昭和初期撮影



▲出征風景

戦前から文化・娯楽の殿堂であった開明座の前(上)や駅前(下)からも、戦中になると出征していく若者の姿が見られるようになった。

昭和18年(1943)撮影

●住民の生活

▼防空演習(上下2枚とも)

本土決戦の危機感と、たび重なる空襲により、防火演習は日ごとにその重要性を増してきた。この主役は、写真からもわかるように婦人たちであった。バケツとモンベ姿が、当時の婦人の生活を写している。昭和19年(1944)ころ撮影

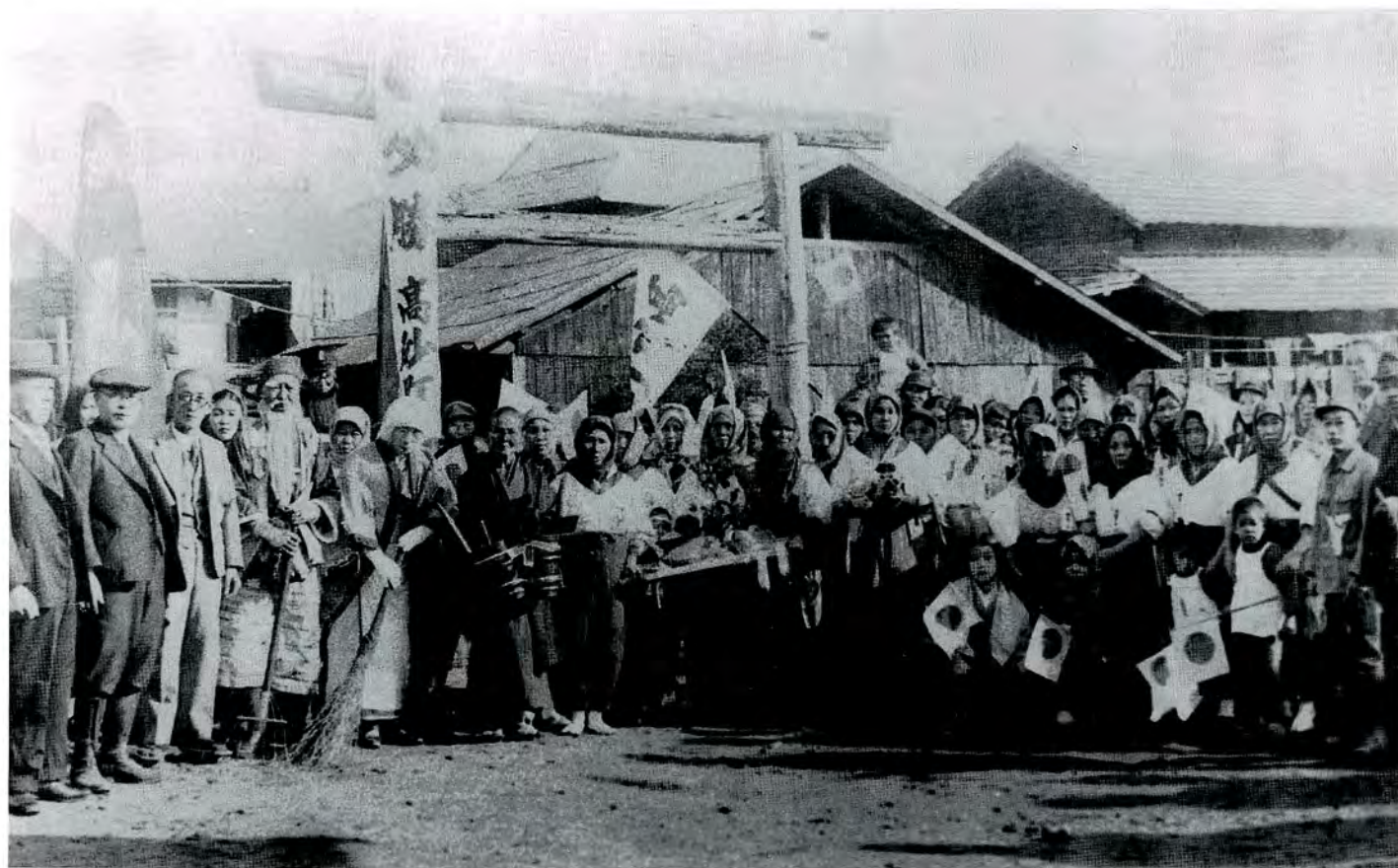




▲田植え奉仕

松岡町では出征した家に中学生や町民が田植奉仕をして援助した。昭和17年(1942)5月撮影

▼高萩町町民運動会 昭和14年(1939)11月撮影





▲戦時中の
石滝共同作業炊事場
昭和17年(1942)ころ
撮影



▲花見
滝神社境内での花見風景。戦後も10年たち、友人・知人と花見で楽しいひとときを過ごす余裕ができた。昭和30年(1955)4月撮影



▲素人演芸の笠おどり（上下2枚とも）

向洋炭鉱で行われた素人演芸と、見物に集まった人々である。炭鉱や青年会などでは、正月や盆、お祭りの時などに、広場に仮設舞台をつくり演芸会を開いた。当時は、こうした演芸や映画が娯楽の中心であった。
昭和31年(1956)ころ撮影

●市制施行祝賀祭

昭和30年5月3日から3日間、市制祝賀式典をはじめ、市内各地でいろいろな祝賀行事が開催された。地域から、職場から、多くの人々が参加し、高萩市民としての喜びを分かち合った。この時の高萩市の人口は約3万1千人であった。



▲市制祝賀式典(高萩高校)
昭和30年(1955)5月撮影



▲ちようちん行列 昭和30年(1955)5月撮影



◀児童公園での祝賀演芸会
昭和30年(1955)5月撮影

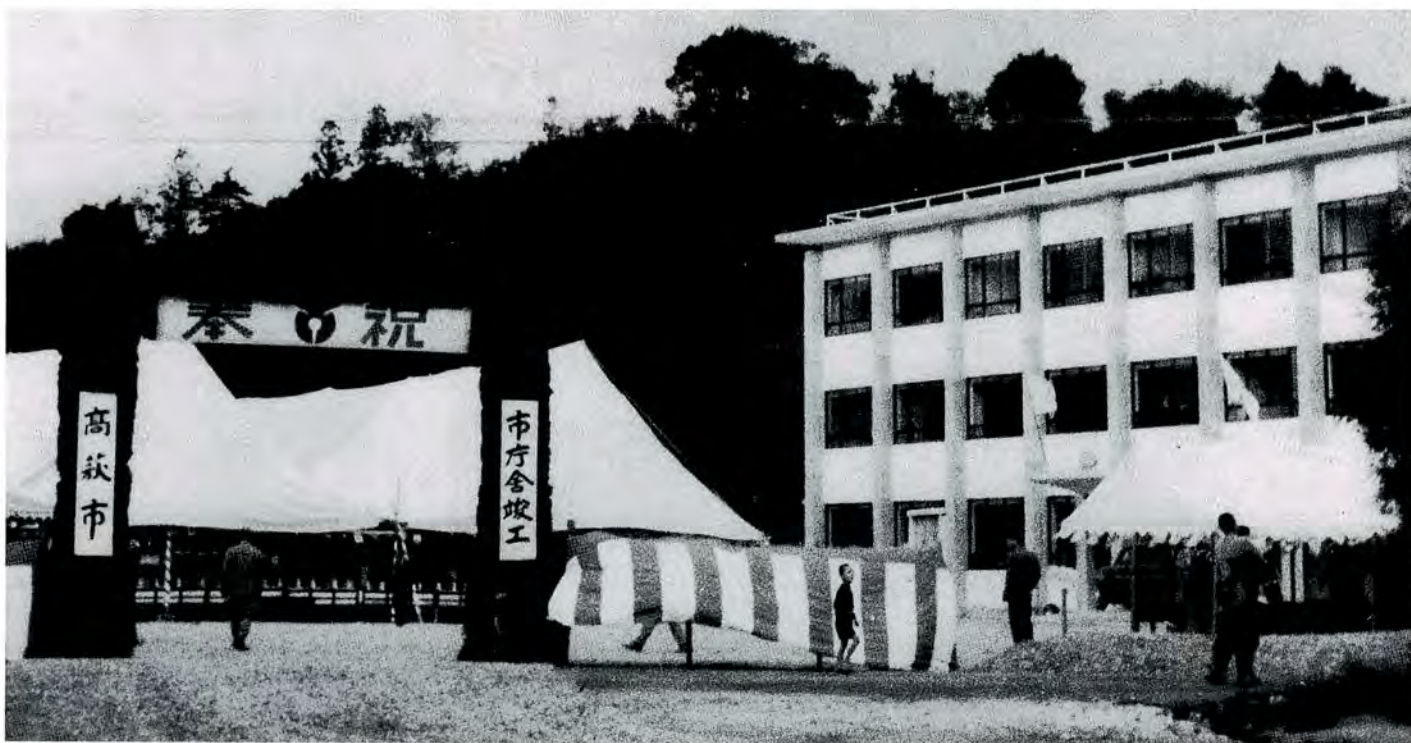
▲炭鉱の人も祝賀祭に参加
昭和30年(1955)5月撮影



▼市庁舎竣工式

市制施行後、田んぼの中に当時としては近代的な建物だった庁舎が完成。昭和33年(1958)8月に竣工式が行われた。

昭和33年(1958)8月撮影







◀市制祝賀のまちのようす(左下2枚ともに)
公園や広場には、各町内から出た山車やサーカ
スを見物しようとする人で人垣ができた。子ど
もたちは綿アメやアイスクャンデーをなめなが
ら見物していた。昭和30年(1955)5月撮影

▼駅前通りの七夕

駅前商店会では、販売促進とPRを兼ねて七夕ま
つりを開催した。それぞれの商店が競って飾り
つけに工夫を凝らし、大いに盛り上がった。
昭和29年(1954)ころ撮影





◀市制施行10周年祝賀祭

祝賀祭のまつりの行列が駅前にはさしかかったところ。

昭和39年(1964)4月撮影

▼桜まつり

駅前の通りでは、各町内会の踊りなどが披露された。



▼茨城国体の炬火リレー

第29回国民体育大会が茨城県で開かれ、高萩市では一般準硬式野球競技が繰り広げられた。

昭和49年(1974)10月撮影





▲第27回全国植樹祭「お手まき行事」

下手綱の植樹祭会場は、現在、森林公園として開放され、市民の憩いの場として親しまれている。 昭和51年(1976)5月撮影



▼安良川八幡宮の千年祭

寛和元年(985)に創建されて以来、地域住民の心のよりどころとして栄えてきた八幡宮。7年ごとに大祭も行われている。

昭和60年(1985)4月撮影

▲第5回高萩市民まつり

昭和49年(1974)5月には「高萩市民ばやし」「高萩市民の歌」もでき、市民参加によるまつりもいちだんと盛んになった。

昭和50年(1975)7月撮影

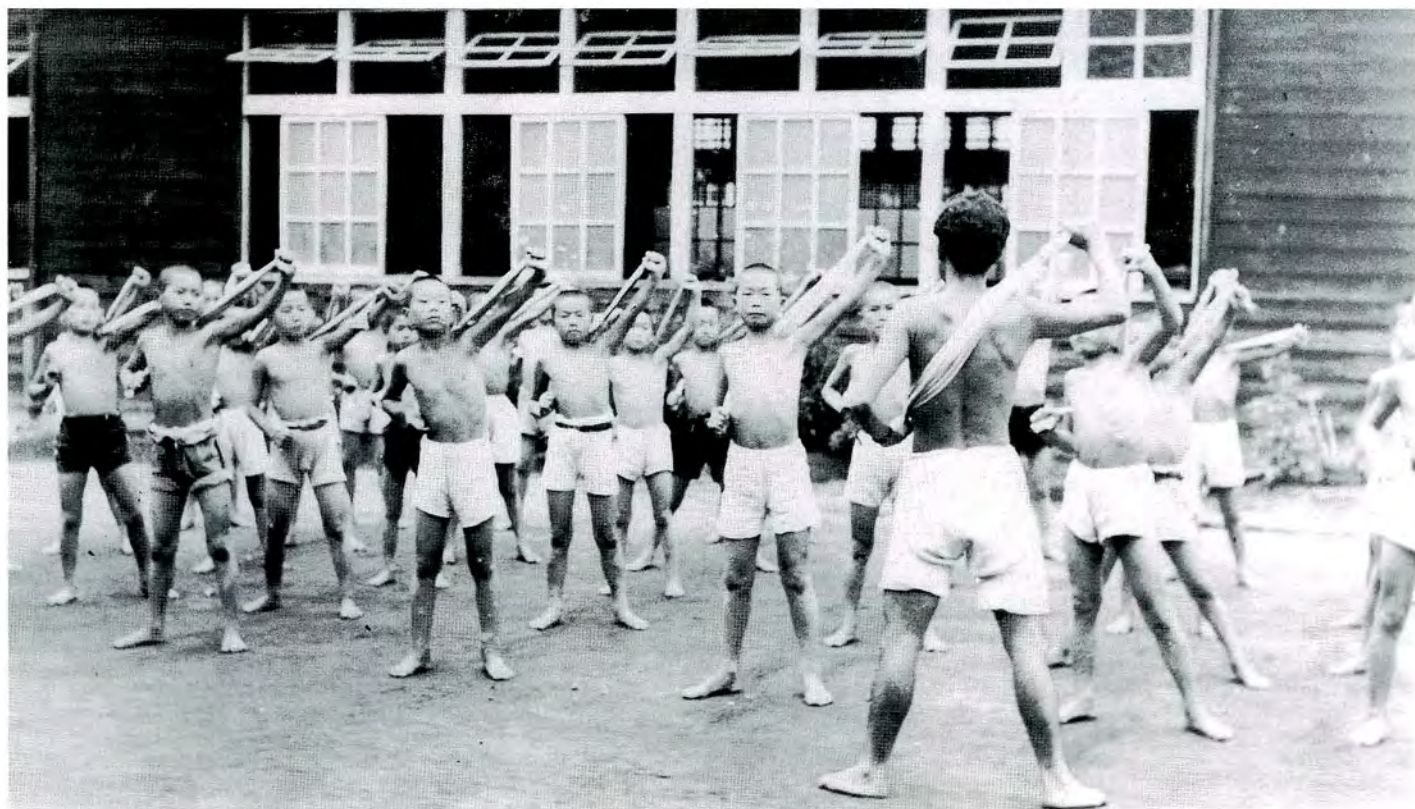


教育

戦時中の子どもたちの教育は、愛国心の高揚と併せて、国づくりのための丈夫な体づくりが中心であった。水泳訓練や乾布摩擦など、四季折々の自然の中で、たくましい子どもを育てる教育が重視された。



▼乾布摩擦（高萩小）
昭和18年（1943）ころ撮影



◀水泳訓練（高萩小）昭和18年（1943）夏撮影



▼馬市場でのラジオ体操
昭和18年（1943）8月撮影





▼健康診断（高萩小）戦時中に撮影





◀肝油の配給（高萩小）

食料事情も日増しに悪くなり、肝油の配給による栄養補給や定期健康診断が、子どもたちの成長に欠かせない状況であった。

戦時中に撮影



清掃作業（高萩小）▶
戦時中に撮影

高萩小学校

大正15年(1926)の火災の後に建てられた校舎は、昭和51年(1976)7月に現在の鉄筋コンクリート建て校舎ができるまで使用された。



▼平成元年(1989)7月撮影

▲昭和31年(1956)4月撮影



松岡小学校

大正2年(1913)5月に新築開校した松岡小学校は、昭和39年(1964)に鉄筋コンクリート3階建て校舎になるまで、増築しながら使われていた。



▲新築開校した松岡小学校 大正2年(1913)5月撮影



◀平成元年(1989)7月撮影

東小学校

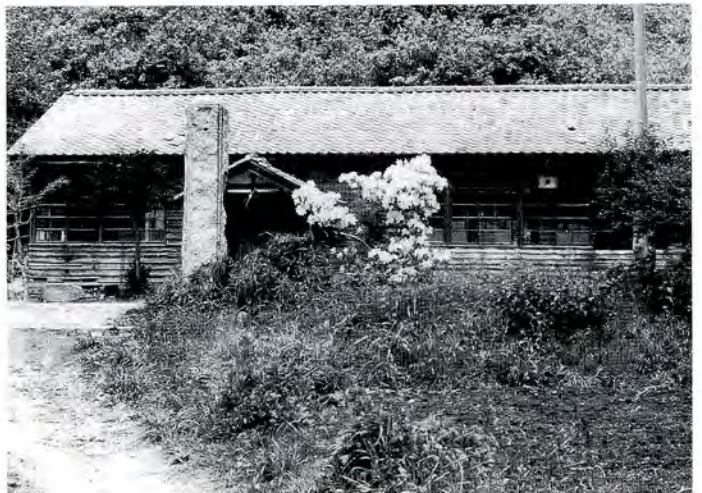
昭和33年(1958)4月開校。開校と同時に、若栗・中戸川・大能の各小学校は廃止され、東小学校の教場となる。翌年、中戸川・大能の教場も廃止され、本校へスクールバスで通学するようになった。



▲平成元年(1989)7月撮影



▲開校を前に開かれた東小学校竣工記念式
昭和33年(1958)3月撮影



▲大能小学校

昭和33年(1958)から東小学校の教場となるが、翌年に廃止され、東小へスクールバス通学となった。 昭和43年(1968)5月撮影



◀中戸川小学校

昭和33年(1958)から東小学校の教場となるが、翌年に廃止され、東小へスクールバス通学となった。 昭和41年(1966)4月撮影



若栗小学校・若栗中学校▶

若栗小学校は昭和33年(1958)に東小学校の教場となったが、40年には教場も廃止されて松岡小学校へ統合した。若栗中学校も35年に秋山中学校の教場となったが、40年には教場を廃止、松岡中学校へ統合した。 昭和34年(1959)ころ撮影

秋山小学校

昭和57年(1982)8月、鉄筋コンクリートの新校舎が完成し、木造校舎は姿を消した。木造校舎は炭鉱全盛のころのものである。



▲昭和33年(1958)10月撮影



◀平成元年(1989)7月撮影

▼横川小学校・横川中学校

横川小学校は平成元年(1989)4月廃校になり、君田小学校へ統合。横川中学校は昭和32年(1957)高萩中学校に統合され、スクールバス通学となった。 昭和44年(1969)3月撮影



君田小・中学校

昭和54年(1979)4月、君田中学校校舎が完成し移転、翌年4月には上君田小学校と下君田小学校が統合し、君田小学校となって現在地に移転開校した。平成元年(1989)には、横川小学校も君田小に統合された。



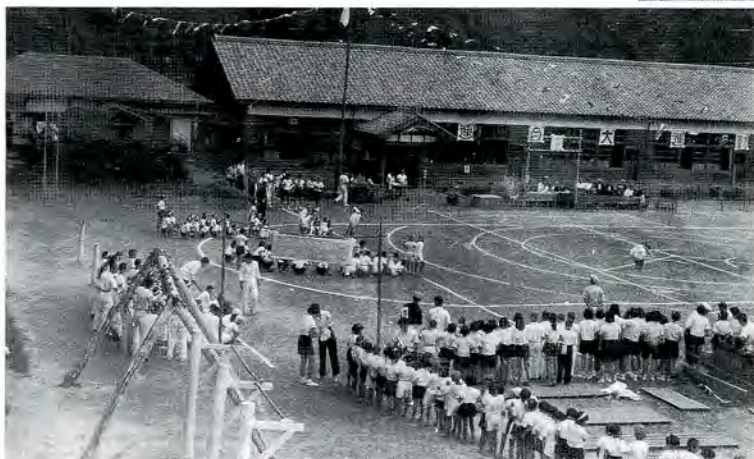
▲平成元年(1989)4月撮影



▲君田中学校 昭和54年(1979)3月撮影



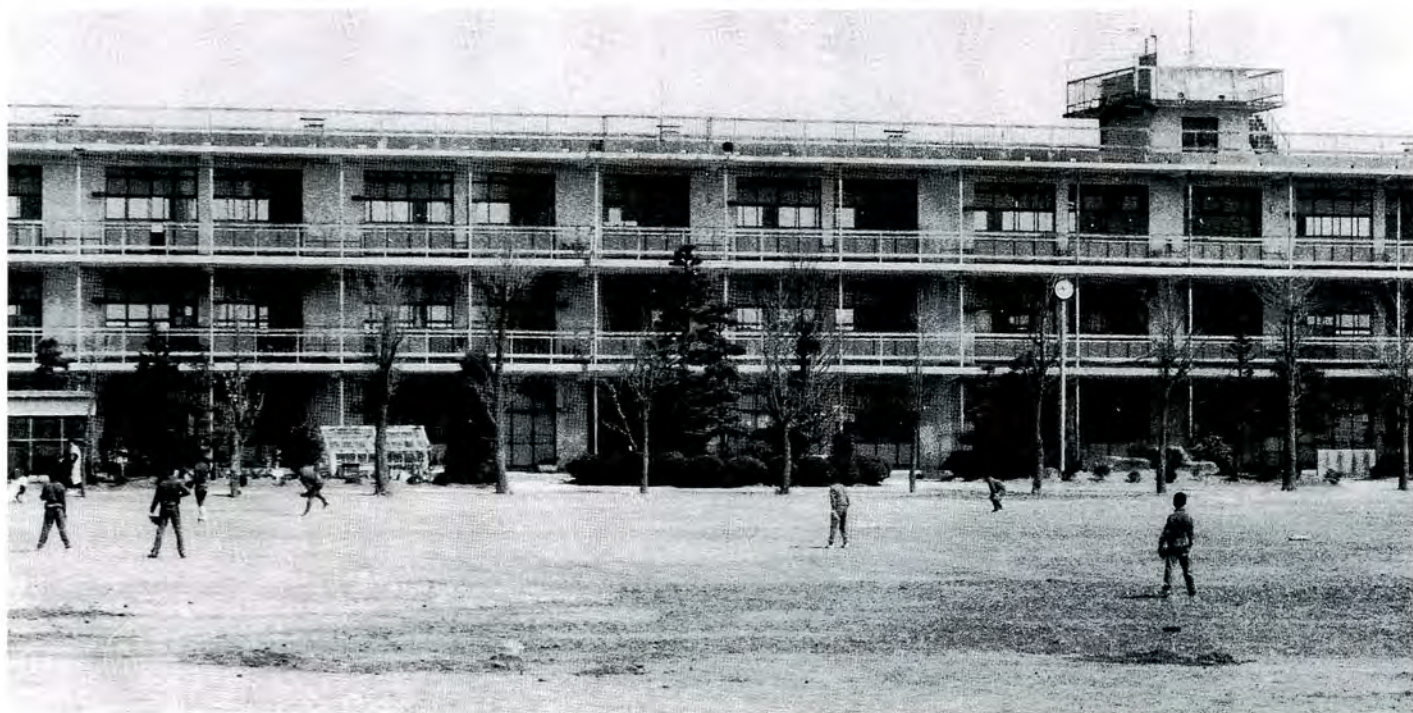
▲下君田小学校 昭和55年(1980)2月撮影



◀上君田小学校 昭和34年(1959)10月撮影

秋山中学校

昭和35年(1960)4月新設開校。開校とともに花貫中学校・若栗中学校を廃止して教場としたが、花貫教場は37年に廃止された。



▲秋山中学校 昭和51年(1976)4月撮影



花貫中学校新築工事 昭和23年(1948)撮影▶

松岡中学校

昭和40年(1965)に秋山中学校若栗教場を統合。
現在の鉄筋コンクリート3階建ての校舎は60年
に完成した。

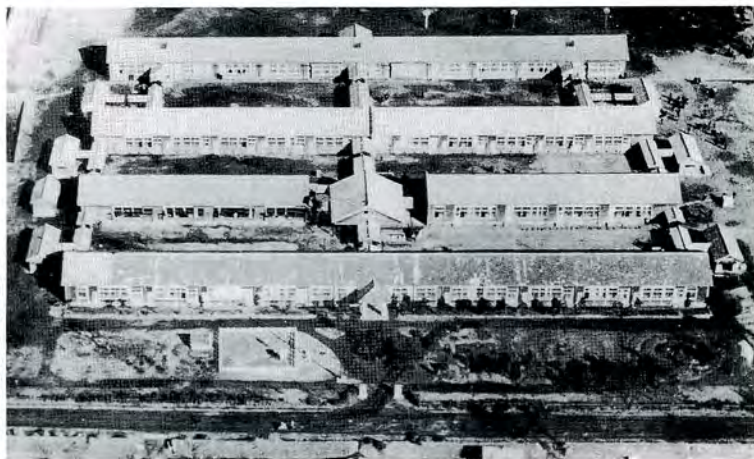
▼平成元年(1989)7月撮影



▲昭和58年(1983)1月撮影

高萩中学校

昭和49年(1974)校舎改築に着工し、52年に現在
の校舎が完成した。



▲昭和28年(1953)8月撮影

◀平成元年(1989)7月撮影

高萩高等学校

昭和3年(1928)4月、松原実科高等女学校として開校。23年4月に高萩高等学校となる。約60年の歴史と伝統をもち、「至誠、勤労、自治」の校訓のもと、学力、体力の向上とともに心豊かな人間性の育成に努めている。定員は全日制普通科893人、家政科141人、定時制普通科160人。(平成元年現在)



昭和29年(1954)8月撮影▶



▲平成元年(1989)8月撮影

高萩工業高等学校

昭和38年(1963)4月開校。県下に誇る実習施設をもち、「より強く、より高く、より広く」をモットーに広い教養と人間性を培っている。定員は504人で、機械科と電気科に分かれている。(平成元年現在)

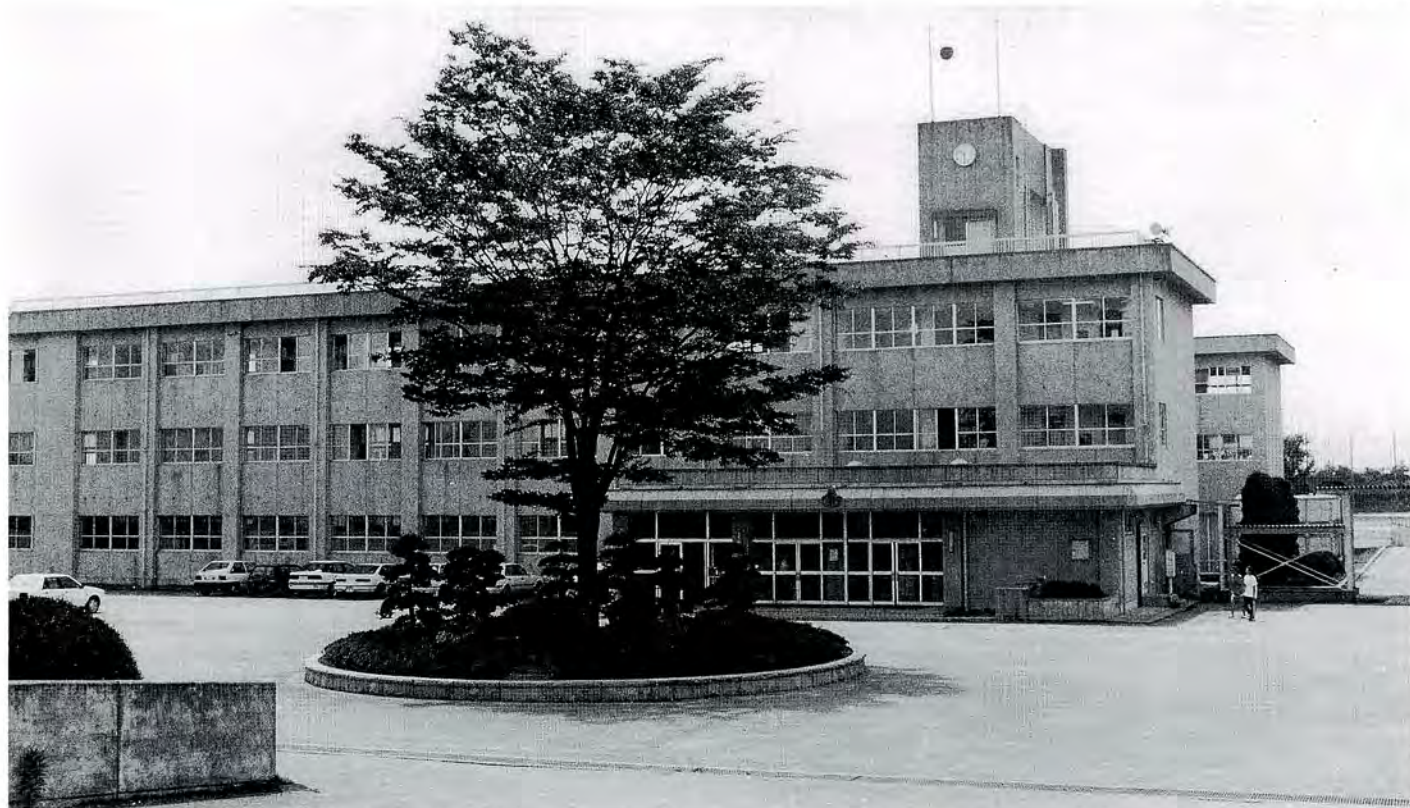
▼平成元年(1989)8月撮影



松丘高等学校

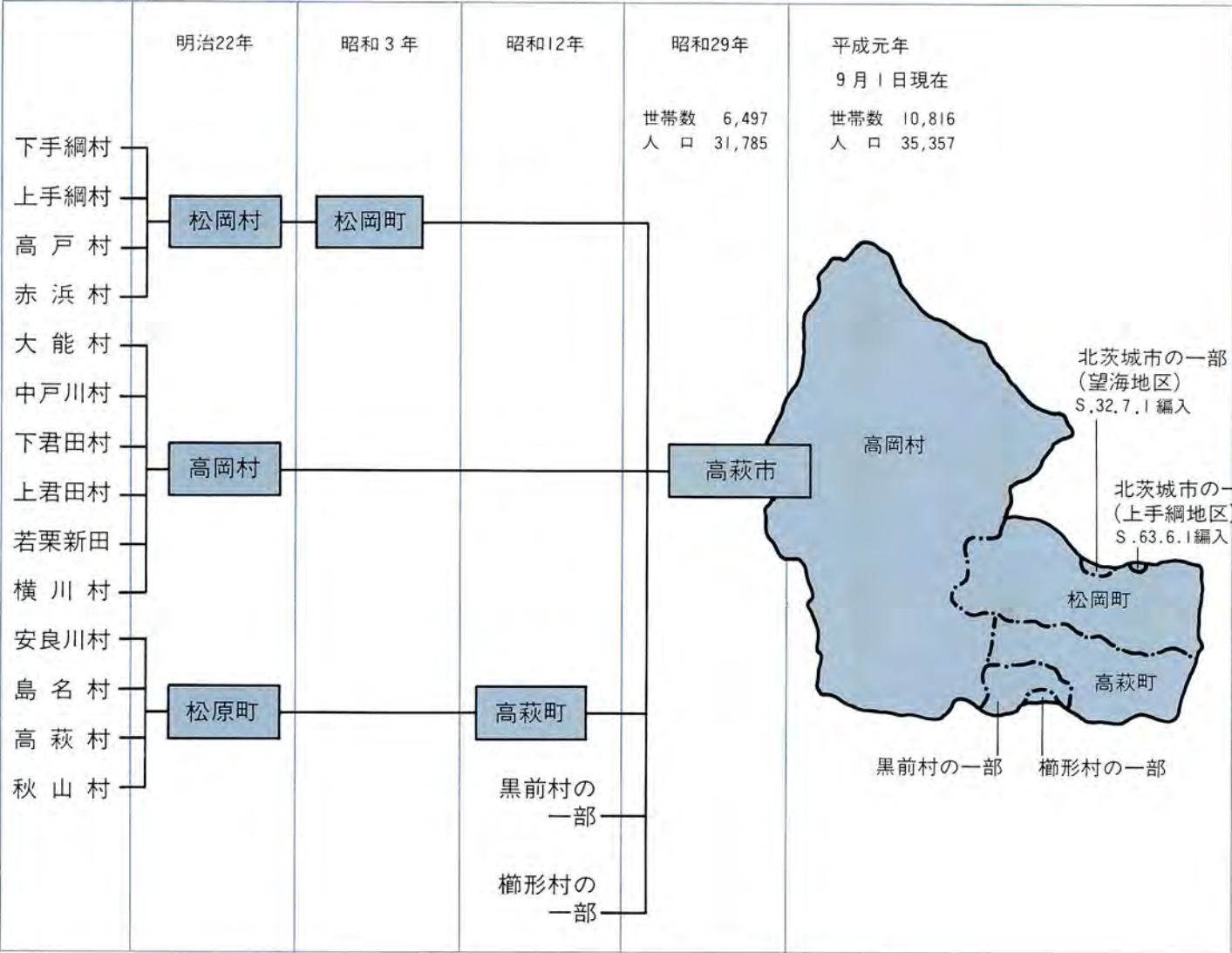
昭和50年(1975)4月開校。「協和、至誠、創造」の校訓のもとに、自主的、自律的な学習活動と調和のとれた人間性の育成をめざしている。定員は全日制普通科846人。(平成元年現在)

▼平成元年(1989)8月撮影



資料・年表編

高萩地方の町や村の移り変わり



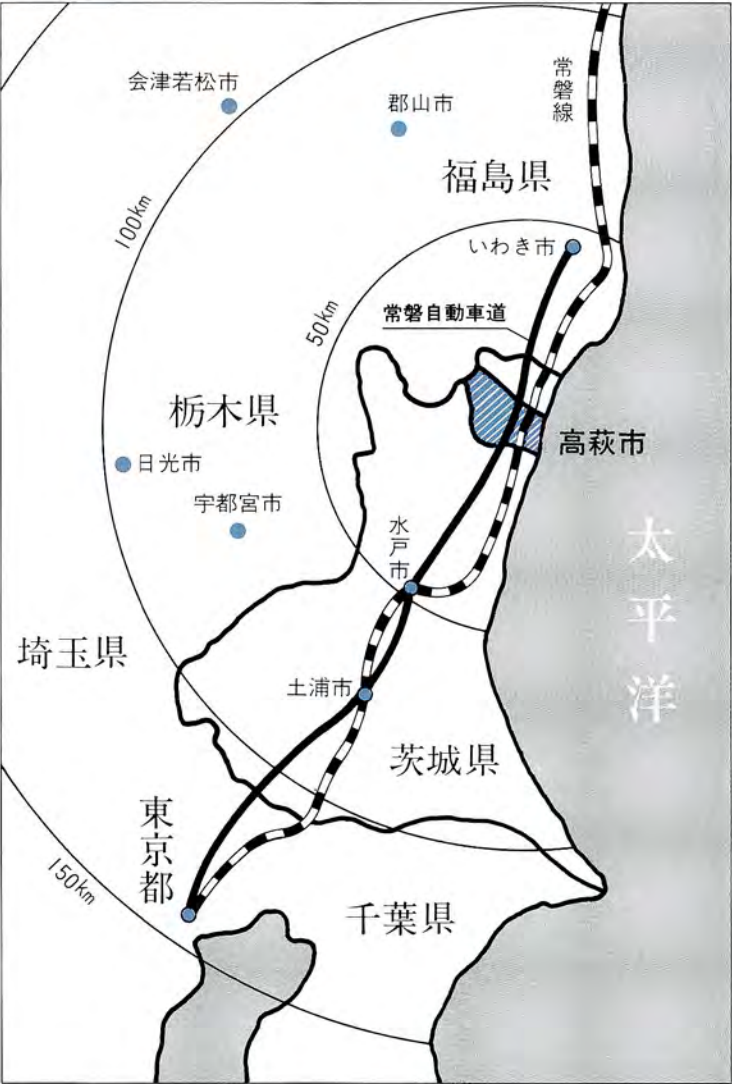
人口と世帯の推移

(単位：世帯、人) 各年10月1日現在

区分 年次	世帯数	人 口			1世帯当たり 人 員	人口密度 1 km ² につき	備 考
		総 数	男	女			
明治38年	1,419	10,233			7.2	52.8	
大正4年	1,839	11,413			6.2	58.9	
9年	4,140	19,635	9,903	9,732	4.7	101.3	国勢調査
14年	4,798	22,124	11,152	10,972	4.6	114.2	"
昭和5年	3,925	19,189	9,590	9,599	4.9	99.0	"
10年	3,673	17,995	8,908	9,087	4.9	92.9	"
15年	4,350	21,079	10,556	10,523	4.8	108.8	"
22年	5,740	27,934	13,724	14,210	4.9	144.1	臨時国勢調査
25年	6,208	29,892	14,760	15,132	4.8	154.2	国勢調査
29年	6,497	31,785	15,606	16,179	4.9	164.0	市制施行
30年	6,404	31,263	15,487	15,776	4.9	161.3	国勢調査
35年	7,071	32,816	16,225	16,591	4.6	169.3	"
40年	7,626	32,497	16,062	16,435	4.3	167.7	"
45年	7,601	29,548	14,439	15,109	3.9	152.5	"
50年	8,526	30,982	15,144	15,838	3.6	159.9	"
55年	9,455	32,436	15,932	16,504	3.4	167.4	"
60年	10,105	33,968	16,686	17,282	3.4	175.3	"
63年	10,658	35,095	17,300	17,795	3.3	181.1	
平成元年	10,816	35,357	17,418	17,939	3.3	182.4	9月1日現在

資料：国勢調査、常住人口調査

市の位置



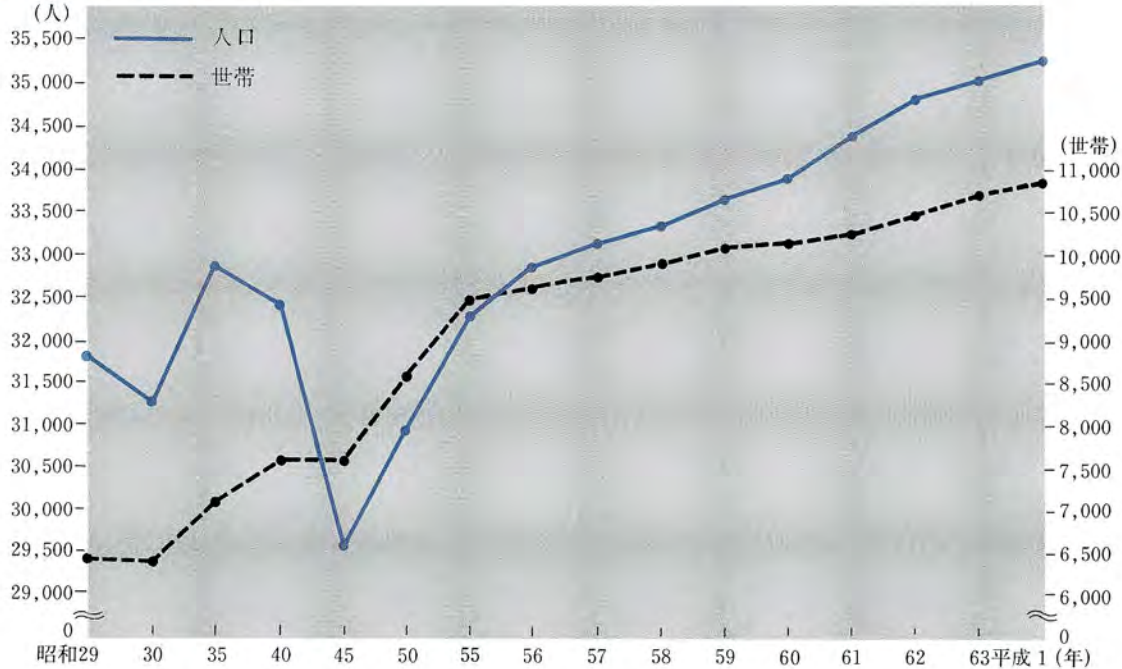
地勢・風土

高萩市は茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系南端の多賀山地が連なっている。北部は福島県東白川郡塙町、茨城県北茨城市、南部は十王町、西部は里美村に接しており、首都東京から150km圏、県庁所在地の水戸市の北約45km、工都日立市の北約17kmの地点にある。

面積は193.80km²、東西17.6km、南北20kmで、県内市町村の中では大子町、つくば市に次ぐ広さを持ち、県土の約3.2%を占めている。また、市域の約85%が山林原野などで、耕地面積は1,086ha（田739ha、畑347ha）である。

気候は、東日本型気候に属し、太平洋に面しているため、県内の内陸部に比べると冬は温暖で夏は涼しくなっている。なお、山間部は海拔300～500mという地形条件により、海岸部より年平均気温が約2度低い内陸気候を示している。

人口と世帯の推移



平成元年 9月1日現在

人 口	35,357人
男	17,418人
女	17,939人
世帯数	10,816世帯

資料：国勢調査、常住人口調査

財政 平成元年度一般会計当初予算 歳入

(単位：千円)

款	本年度予算額	前年度予算額	比 較	構成比(%)
1 市 税	3,436,264	3,325,661	110,603	43.1
2 地 方 譲 与 税	282,317	84,300	198,017	3.5
3 利 子 割 交 付 金	37,200	22,600	14,600	0.5
4 ゴルフ場利用税交付金	40,362	38,870	1,492	0.5
5 自動車取得税交付金	85,900	61,600	24,300	1.1
6 地 方 交 付 税	1,546,300	1,374,800	171,500	19.4
7 交通安全対策特別交付金	7,600	8,500	△900	0.1
8 産炭地域振興臨時交付金	4,760	5,320	△560	0.1
9 分担金及び負担金	122,503	86,347	36,156	1.5
10 使用料及び手数料	201,036	190,700	10,336	2.5
11 国 庫 支 出 金	825,944	836,110	△10,166	10.3
12 県 支 出 金	347,962	288,626	59,336	4.4
13 財 産 収 入	39,779	51,665	△11,886	0.5
14 寄 附 金	7,005	52	6,953	0.1
15 繰 入 金	2	113,301	△113,299	—
16 繰 越 金	114,205	103,700	10,505	1.4
17 諸 収 入	224,831	218,048	6,783	2.8
18 市 債	655,030	476,800	178,230	8.2
合 計	7,979,000	7,287,000	692,000	100.0

歳 出

(単位：千円)

款	本年度予算額	前年度予算額	比 較	構成比(%)
1 議 会 費	165,553	154,366	11,187	2.1
2 総 務 費	1,039,004	879,949	159,055	13.0
3 民 生 費	1,263,546	1,221,900	41,646	15.8
4 衛 生 費	777,936	542,681	235,255	9.7
5 労 働 費	37,121	52,427	△15,306	0.5
6 農 林 水 産 業 費	668,278	560,164	108,114	8.4
7 商 工 費	152,867	84,577	68,290	1.9
8 土 木 費	1,472,666	1,491,450	△18,784	18.5
9 消 防 費	392,091	371,885	20,206	4.9
10 教 育 費	1,060,368	1,004,373	55,995	13.3
11 災 害 復 旧 費	2	2	0	—
12 公 債 費	890,417	863,241	27,176	11.2
13 予 備 費	59,151	59,985	△834	0.7
合 計	7,979,000	7,287,000	692,000	100.0

教 育

幼稚園

平成元年5月1日現在

名 称	所 在 地	学級数	園児数	教員数
第一幼稚園	本町4-5	2	63	5
東 幼 稚 園	有明町1-141	2	65	4
松岡幼稚園	大字下手綱34	2	52	4
秋山幼稚園	大字島名2230	4	124	6
私立キリスト聖児幼稚園	有明町2-1	5	143	9

資料：学校基本調査

小学校

平成元年5月1日現在

名 称	所 在 地	学級数	児童数	教員数
高萩小学校	大字安良川1048	29	837	35
秋山小学校	大字島名2161-1	28	1,037	35
松岡小学校	大字下手綱43	16	536	21
東 小 学 校	有明町1-141	19	679	25
君田小学校	大字下君田682	3	36	6

資料：学校基本調査

中学校

平成元年5月1日現在

名 称	所 在 地	学級数	児童数	教員数
高萩中学校	高浜町1-77	22	865	37
秋山中学校	大字高萩273	16	584	28
松岡中学校	大字下手綱4	7	268	14
君田中学校	大字下君田682	2	21	12

資料：学校基本調査

高等学校

昭和63年5月1日現在

区 分	生徒総数	全日制	定時制	教員数
県立高萩高等学校	1,093	1,013	80	61
県立高萩工業高等学校	493	493	—	41
県立松丘高等学校	804	804	—	41

資料：各高等学校調査

産 業

産業別就業者数(15歳以上) 昭和60年10月1日現在 (単位:人)

産 業 分 類		就業者数	小計	総計
第一次産業	農業	1,425	1,613 (10.0%)	16,210
	林業・狩猟業	184		
	漁業・水産養殖業	4		
第二次産業	鉱業	10	7,213 (44.5%)	
	建設業	1,444		
	製造業	5,759		
第三次産業	卸売小売業	2,663	7,376 (45.5%)	
	金融保険業	236		
	不動産業	51		
	運輸通信業	1,032		
	電気・ガス・水道	54		
	サービス業	2,891		
	公務	449		
	分類不能の産業	8		

資料: 国勢調査

産業別就業者の推移

昭和35年	第一次産業 27.1%	第二次産業 41.9%	第三次産業 31.0%
40年	22.4	42.6	34.9
			分類不能の産業0.1
45年	18.7	42.1	39.2
50年	14.4	42.4	43.0
			分類不能の産業0.2
55年	11.6	44.5	43.9
60年	10.0	44.5	45.5

資料: 国勢調査

商 業

商店数・従業者数・年間販売額の推移 各年6月1日現在

年次 (昭和)	商 店 数				従業者 数(人)	年間商品 販売額 (単位:百万円)
	総 数	卸売業	小売業	飲食店		
39年	603	48	481	74	1,887	3,490
51年	743	55	524	164	2,406	23,290
60年	570	62	508	—	2,248	45,598
61年	129	—	—	129	337	1,397
63年	552	65	487	—	2,426	48,197

資料: 商業統計調査

農 業

農家人口・専兼別農家数

各年2月1日現在

年 次 (昭和)	総人口 (人)	農家人口 (人)	農 家 数 (戸)			
			総 数	専業 農家	第一種 兼業農家	第二種 兼業農家
41年	32,571	8,619	1,600	255	600	745
46年	29,575	7,103	1,460	152	496	812
51年	31,155	6,354	1,383	115	315	953
56年	32,562	5,875	1,330	126	286	918
58年	33,333	5,602	1,304	121	239	944
61年	34,068	5,371	1,257	154	134	969
63年	34,899	5,154	1,210	164	185	861

資料: 茨城県農業基本調査

専業・兼業別農家数の推移

昭和41年	専業農家 15.9%	第一種兼業農家 37.5%	第二種兼業農家 46.6%
46年	10.4	34.0	55.6
51年	8.3	22.8	68.9
56年	9.5	21.5	69.0
58年	9.3	18.3	72.4
61年	12.3	10.7	77.0
63年	13.6	15.3	71.1

資料: 茨城県農業基本調査

工 業

工業の推移 (全事業所)

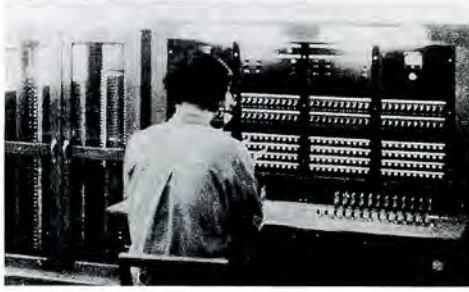
各年12月31日現在

年 次 (昭和)	事業所数 (所)	従業者数 (人)	現金給与 総額(万円)	原材料 使用額等(万円)	製造品 出荷額等(万円)
30年	63	676	...	...	46,236
35年	193	1,424	...	...	350,682
40年	105	1,742	44,370	335,919	461,480
45年	138	2,706	159,113	747,294	1,139,885
50年	135	3,130	413,771	2,776,103	3,608,498
55年	144	3,723	855,072	5,615,626	8,902,691
60年	154	3,963	1,164,335	6,226,831	10,664,624
62年	155	3,821	1,231,384	5,712,903	11,164,040

資料: 工業統計調査

年 表

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と	西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
1954 昭和29年	3. 1 3. 24 5. 25 11. 23	米のビキニ環礁水爆実験で第5 福竜丸被災 高萩パルプ(株)高萩工場設立 大北川林道全面開通 高萩町・松岡町・高岡村の2町1村と黒前村 および櫛形村の一部が合併して高萩市誕生	1957 昭和32年	3. 3. 4. 1 4. 22 5. 7. 1 8.	高萩市及び十王町防疫組合伝染病隔離病舎完 成 高萩市役所松岡支所および高岡支所廃止 高萩中学校へ横川中学校を統合、スクールバ ス通学開始 第一幼稚園開園 中央児童公園完成 北茨城市の望海地区を高萩市へ編入 新花貫橋完成
1955 昭和30年	12. 25 4. 5.3~5	第1回高萩市長選挙(小峰威夫氏当選) 高浜町に初めての市営住宅完成 高萩市制祝賀式典举行	1958 昭和33年	4. 4. 5. 6. 6. 8. 9.	東小学校新設に伴い学区の一部変更実施。若 栗・大能・中戸川小学校を廃止し、東小学校 の教場とする 高萩海岸高潮対策護岸工事に着手 高萩市老人クラブ結成される 国鉄バス、高萩ー関口・石打場間開通 高萩市建設計画できる 市役所新庁舎完成 第1回市民運動会開催
					
		(高萩高校講堂) 市制施行祝賀行事=昭和30年5月3日、4日、5 日の3日間、各地で祝賀行事が行われた		11.	国鉄バス、常陸横川ー北大金田間、 ^{ますがた} 枅形ー高 萩中学校前間開通
	9. 10	「市報たかはぎ」の前身「高萩市生活改善」第 1号発行			
					
1956 昭和31年	11. 12 12. 26 2. 3. 1 8. 9. 10. 12. 18	第1回高萩市議会議員一般選挙(定数30名、 投票率87.1%) 高潮により高戸海岸防波堤が破壊される 国鉄バス、高萩ー上君田間開通 日立電鉄高萩営業所、駅前到新築移転 第11号より「高萩市生活改善」改め「市報た かはぎ」となる 高萩市社会福祉協議会発足 都市計画により町界・町名改正 高萩市工場誘致条例制定	1959 昭和34年	12. 20 2. 5 2. 11 4. 1 4. 4. 4. 4. 10 9. 26 11. 10 12. 15	第2回高萩市長選挙(安村篤氏無投票当選) 向洋炭鉱、宇部興産から独立 国鉄バス、島名ー下高倉間開通 高萩保育所開設 大能・中戸川教場を廃止し東小学校へのス クールバス通学開始 高萩市の国民健康保険事業発足 高萩保健所開設 皇太子結婚式。前後してテレビが爆発的に売れ る 伊勢湾台風来襲、全国の死者5,000人を超える 第2回高萩市議会議員一般選挙(投票率92. 91%) 国鉄バス、川尻ー石滝・高萩農協前間開通

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
1960 昭和35年	1. 3. 4. 1 4. 5. 9. 12.	駅東土地区画整備により町界・町名改正 東小学校校舎完成 秋山小学校増改築工事完了 秋山中学校新設開校。花貫中学校・若栗中学校を廃止し秋山中学校教場とする 黒牛250頭導入 高萩市商工会発足 高萩陸橋完成
1961 昭和36年	4. 6.	国民年金制度発足 高萩市有線放送開始
		
	9. 11.	鹿島臨海工業地帯造成計画できる 産炭地域振興臨時措置法公布。高萩市、産炭地域の指定を受ける
1962 昭和37年	2. 3. 1 3. 31 4. 6. 21 10. 1 12. 20	宮後溜池改修工事完成 東本町郵便局開局 第一幼稚園園舎完成 秋山中学校全校舎完成。花貫教場を廃止し秋山中学校へのスクールバス通学開始 上君田診療所開設 常磐線、勝田－高萩間電車運転開始 第3回高萩市長選挙（安村篤氏再選、投票率81.38%）
1963 昭和38年	3. 4. 1	「交通安全都市宣言」 県立高萩工業高等学校開校
		
	5. 6. 1 11. 13 11. 11. 22	高萩市住宅公社設立 常磐線、高萩－平間電車運転開始 第3回高萩市議会議員一般選挙（投票率91.40%） KDD、高萩市石滝に茨城衛星通信所を設置する ケネディ米大統領暗殺される この年、高萩市史編纂研究会発足
1964 昭和39年	3. 4. 5. 30	高萩海岸高潮対策護岸工事完成 中央こ線人道橋完成 高萩市「市勢要覧」発刊

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
		
	6. 7. 31 9.	松岡小学校全校舎完成 高萩電報電話局局舎完成、自動電話開通 磯道こ線人道橋完成
		
	9. 10. 10. 10 11.	高萩海岸開発護岸工事完成 土岳・花貫溪谷が県立自然公園に指定される 東京オリンピック大会開催される 市制施行10周年記念式典挙行
1965 昭和40年	1. 3. 4. 1 4. 1	高萩駅前に「希望の鐘」設置 高萩市及び十王町防疫組合が衛生組合になる 高萩市消防署発足 東小学校若栗教場および秋山中学校若栗教場を廃止し、それぞれ松岡小学校、松岡中学校に統合
	6. 8 10. 12. 1	高萩市消防署庁舎完成 新磯馴橋完成 高萩パルプ(株)、日本加工製紙(株)に社名変更
1966 昭和41年	2. 1 4. 7. 9.	高萩農協と松岡農協が合併し高萩市農業協同組合発足 高萩・北茨城と畜場組合を設立 高萩郵便局局舎完成 花貫衛生センター完成
		
	12. 2	第4回高萩市長選挙（安村篤氏三選、投票率86.23%）

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と	西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
1967 昭和42年	2. 3	高萩炭砒(株)、高萩鉾閉山を宣言(8月閉山)	1971 昭和46年	3. 25	文化財保護条例制定
	3.	高萩税務署、日立市へ移転し日立税務署となる		4.	東幼稚園開園
	3.	高萩家畜市場で最後の馬市開催(以後牛市となる)		4. 8	第1回高萩まつり開催
	4.	市役所第2庁舎完成		7. 1	市の組織機構大幅に改革される(部制採用)
	10. 27	第4回高萩市議会議員一般選挙(定数30名から24名となる、投票率91.75%)		7.	市民相談室設置
1968 昭和43年	10.	常磐線全線電化される	1972 昭和47年	7. 22	市政モニター制度導入
	11. 10	米国ブルースター町と衛星通信により姉妹都市提携記念通話を行う		8. 11	花貫ダム定礎式
		この年、高萩中学校屋内運動場完成		8. 19	高萩中学校に学校で初めてのプールできる
		向洋炭鉾閉山を宣言		8. 20	松久保工業団地進出企業と「環境保全等に関する協定書」調印
	3. 1	秋山保育所開設		9. 23	下君田地区の「ささら」復活
1969 昭和44年	4.	高萩・北茨城と畜場組合の食肉センター完成		9.	中央公民館完成
	6.	高萩霊園第1期工事完成		10. 27	第5回高萩市議会議員一般選挙(投票率89.52%)
	8.	上水道工事に着工する		11. 23	第1回市民表彰式挙行
	10. 7	第1回高萩肥育肉牛共進会開催		12.	東幼稚園園舎完成
	10. 24	高岡地区農村集団自動電話開通		2. 21	秋山中学校屋内運動場完成
1970 昭和45年	12.	市議会で松久保工業団地造成を決定 この年、花貫ダム建設に着工		4.	高萩市総合振興計画策定
	3.	高萩小学校校舎建築第1期工事完了		4. 8	高浜運動広場内に蒸気機関車「96(キューロク)」設置
	3.	東本町第1歩道橋完成			
	4. 1	高萩市交通指導員配置			
	7. 21	アポロ11号、人類初の月面着陸に成功			
	9. 1	消防署で救急業務開始			
	11. 5	市営野球場起工式			
	11. 5	筑波研究学園都市総合起工式		4.	花貫衛生センター北部処理場完成
	11.	高萩市史(上・下巻)発刊		4. 27	明るく住みよいまちづくり市民運動推進協議会設立
	3. 22	下君田地区大火災		5.	望海炭鉾閉山
	7.	赤浜古墳発掘		7.	松久保工業団地造成工事完了
				7.	市営野球場完成
	10. 10	第1回市民歩く会開催		9.	高松宮賜杯第16回全日本軟式野球大会開催
	11. 7	高萩駅ホームに高萩牛「黒毛和牛剥製」展示		10. 14	第1回「みんなの消費生活展」開催
				12.	第14回関東肉牛共進会が高萩市で開催される
				12.	高萩第一浄水場完成
			1973 昭和48年		
	11. 8	第1回高萩市民号運行			
	11. 9	松久保工業団地起工式			
	11. 26	第5回高萩市長選挙(鈴木藤太氏当選、投票率80.67%)			
				2.	松岡中学校屋内運動場完成
				3.	花貫ダム完成
				4. 1	上水道事業一部給水開始
				4. 1	松岡小学校屋内運動場完成
				4. 20	秋山幼稚園開園
				6. 15	老人いこいの家「ことぶき荘」完成 この頃から石油危機はじまり、物資不足深刻になる

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
1974 昭和49年	9. 15	第1回高萩市長杯争奪軟式野球大会開かれる
	10. 15	下君田「ささら」市無形文化財に指定される
	10. 15	下君田「大塚神社のスギとモミ」が県指定文化財(天然記念物)に指定される
	11. 22	花貫ダム竣工 記念式典挙行
		
	12.	都市計画用途地域決まる
	2.	海浜公園完成
	3. 29	市の木「マツ」、市の花「ハギ」、市の鳥「キジ」を制定する
	5.	「高萩市民の歌」「高萩市民ばやし」作成
	5.	高萩市農業協同組合本館完成
	6.	工業用水の給水はじまる
	8.	駅前広場を整備し、バス発着所完成
1975 昭和50年	10. 10	第1回市民音楽祭開催
	10. 21	第29回国民体育大会が茨城県で開催され、高萩は一般準硬式野球競技の会場となる
	11. 20	市制施行20周年記念式典挙行。市民憲章制定される
	11. 20	市役所玄関前にブロンズ像完成
	11. 23	「はばたく高萩」(小学生社会科副読本)発行
	12. 1	第6回高萩市長選挙(鈴木藤太氏再選、投票率85.17%)
	3.	手綱工業団地完成
	3. 28	峰越連絡林道 杉野谷地柳沢 線(高萩塙線) 開通
		
	4.	県立松丘高等学校開校
	4.	高萩小学校校舎建築第2期工事完了
	5.3~5	第1回高萩国際交流の集い開催

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
1976 昭和51年	5.	第1回「楽しく遊ぼうみんなの広場」開催
		
		オズの魔法使い 昭和50. 5. 11(母の日)
	9. 9	赤浜田園都市センター完成
	10. 7	高萩中学校校舎建築第1期工事完了
	10. 31	市民体育館完成
	11. 9	第6回高萩市議会議員一般選挙(投票率91.04%)
	2. 15	第1回高萩市民マラソン大会開催
	3. 11	高萩市民間交通指導員委嘱
	4. 29	「高萩の植物」発刊
	5. 24	第27回全国植樹祭「お手まき行事」高萩市で開催される
	7.	高萩小学校校舎建築第3期工事完了
1977 昭和52年	7. 27	ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕
	12.	花貫衛生センターし尿処理施設完成
	5. 8	三里塚で鉄塔撤去に抗議する反対同盟と機動隊衝突
	5. 10	「鈴木玄淳の墓」「長久保赤水の墓」が市の史跡に指定される
	6. 5	日本ボーイスカウト高萩第一団発団式
	8. 4	高萩中学校校舎建築第2期工事完了
	11. 8	「北宿並木一本松」「琵琶墓古墳」「赤浜一号墳」が市の史跡に指定される
	1. 1	日曜診療開始
	2. 28	東小学校屋内運動場完成
	4.	高萩土木事務所、下手綱へ移転
	4.	救急医療体制スタート
	5. 26	常磐自動車道市内路線発表される
1978 昭和53年	7.	福祉バス「はまなす号」運行開始
	9. 6	君田小学校および君田中学校敷地造成工事完了
	10. 2	高萩駅、特急停車駅になる
	11. 26	第7回高萩市長選挙(鈴木藤太氏無投票三選)
	11. 20	島名郵便局開局
	3.	君田中学校校舎と第一幼稚園・高萩保育所の園舎、高萩小学校・秋山小学校の屋内運動場完成
	3.	勤労青少年ホーム完成
	4. 1	多賀地方農業共済事務組合設立
	4. 1	高萩市・十王町事務組合設立
	4.	高浜運動広場テニスコート完成
	4.	地籍調査はじまる
	11. 11	第7回高萩市議会議員一般選挙(投票率88.85%)
1979 昭和54年	11. 22	市制施行25周年記念式典挙行
	11.24~25	第1回産業祭開催

西暦・年号	月 日	主 な で き こ と
1980 昭和55年	3.	高萩市文化会館完成 
	4.	君田小学校開校
	4. 14	学校給食センター業務開始
	4. 17	高萩警察署、高戸の新庁舎にて業務開始
	5. 1	高浜運動広場の夜間照明完成
	5. 25	第1回高萩市民ゴルフ大会開催
	6. 8	山王児童公園内に市営相撲場完成
	8.	下水道工事に着手
	8. 25	常磐自動車道高萩インター位置発表される
	10. 1	『高萩の昔話と伝説』発刊
	11. 13	穂積家の母屋などが市の有形文化財に指定される
	11.	万葉の道完成
1981 昭和56年	3.	秋山幼稚園園舎完成
	3.	高萩小学校校舎新築工事完了
	4. 16	KDD茨城衛星通信所に大型アンテナ完成
	6. 24	「花貫暖帯・温帯混合自然林」が市の天然記念物に指定される
	8.	市役所第3庁舎完成
	9.	北部衛生センターゴミ処理施設完成
1982 昭和57年	3.	小島住宅団地分譲開始
	3.	三笠宮崇仁親王殿下講演に御来高
	3.	市民センター完成
	4.	日立・高萩・十王広域下水道組合設立
	4.	身体障害者療護施設「愛正園」開園
	8.	秋山小学校新校舎完成
	10.	丹生神社「棒ささら」復活
	10. 19	米平公共成牧場が一部開場
	10. 26	常磐自動車道建設設計覚書調印
	11. 28	第8回高萩市長選挙（大高省三氏当選、投票率87.79%）
1983 昭和58年	3.	峠の道完成
	4.	ミニ・シルバー人材センター発足
	8.	茨城観光100選花貫ダム第2位入選記念碑建立
	11. 3	下君田「松岩寺の山桜」が市の天然記念物に指定される
	11. 6	第8回高萩市議会議員一般選挙（投票率88.24%）
	12. 1	図書館および歴史民俗資料館開館
1984 昭和59年	2. 28	高萩市・北茨城市・十王町の市外電話局番が統一される
	3.	常磐自動車道高萩地区工事着工
	4.	高萩・北茨城広域工業用水道事業企業団設立
	9.	高萩市・十王町事務組合消防本部新庁舎完成

西暦・年号	月 日	主 な で き こ と
1985 昭和60年	11. 22	市制施行30周年記念式典挙行
	2. 1	高萩塩線県道昇格
	3. 17	科学万博つくば'85開幕（～9.16）
	3. 27	高萩市商工会館下手綱地区に完成
	6. 16	第1回滝坂フェスティバル開催
	6. 23	科学万博「高萩市の日」 
	7.	松岡中学校校舎改築工事完了
	9. 18	日立・高萩・十王広域下水道組合伊師浄化センター管理棟完成
1986 昭和61年	3. 2	第9回高萩市長選挙（鈴木藤太氏当選、投票率84.73%）
	3. 16	関口土地改良事業竣工式
	4. 1	県内初の温泉治療を取り入れた高萩温泉病院オープン
	4. 3	高萩協同病院新病棟完成
	4. 24	小山ダム建設に伴う補償基準覚書調印
	7. 31	君田小・中学校に共同プール完成
	8.4～5	台風10号により被害を受ける
	10. 1	高萩国際交流の集い実行委員会が国際交流基金より「地域交流振興賞」を受賞
	10.	高萩市新総合計画策定される
	12. 22	花貫川流域土地改良区設立許可される
1987 昭和62年	2. 2	花貫川流域地区県営ほ場整備事業くわ入れ式挙行
	3. 5	大高寺(本町)の「九品曼荼羅図」「胎藏界曼荼羅図」が市指定有形文化財となる
	3. 18	水戸地方法務局高萩出張所、新庁舎で業務開始
	3. 31	特別養護老人ホーム「松籟荘」完成
	4. 1	高萩十王斎場オープン
	4. 8	県立北茨城養護学校開校
	6. 4	高戸海岸コースタル・コミュニティ・ゾーン整備計画(C.C.Z)が建設大臣の認定を受ける
	8. 8	高萩家畜市場最後の牛市開催される
	10. 17	C.C.Z.整備計画建設大臣認定記念式典挙行
	10. 30	多賀畜産農業協同組合が、高萩市農業協同組合に合併
	11. 8	第9回高萩市議会議員一般選挙（定数24名から20名となる、投票率87.00%）
1988 昭和63年	1. 13	高萩観光10選決まる
	2. 28	常磐自動車道開通記念歩く会開催
	3. 2	松岡幼稚園園舎完成
	3. 6	杉内、川側地区土地改良事業竣工
	3. 12	高戸大橋開通

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
	3. 18	「青色申告宣言都市」および「納期内納税完納の推進都市」宣言
	3. 24	常磐自動車道全線開通、高萩インターオープン 
		高戸大橋
	4. 1	市役所OA機器導入
	5. 7	『高萩の動物』編集に着手
	6. 1	北茨城市の一部を高萩市へ編入。市域面積193.80km ² となる
	6. 3	中国甘肅省蘭州市長ほか政府経済技術交流団来高
	7. 1	高萩駅前通りにパーキングチケット制駐車導入
	7. 17	有明海岸に高萩海水浴場が約20年ぶりに再開される
	8. 25	第1回高萩市少年水泳大会開催 この夏、長雨低温で水稻に被害でる

西暦・年号	月 日	主 な で き ご と
	9. 20	「核兵器廃絶・平和都市」宣言
	10.	小山ダム付け替え県道および工事用道路建設着工
	10.	中国黄河流域の緑化に役立てるため、高萩でクズの採種はじまる
	11. 28	後谷地区土地改良事業起工式
	11. 30	花貫川流域土地改良区、石滝地区区画整理事事に着手
1989 平成元年	1. 7	昭和天皇崩御、翌日「平成」と改元される
	1. 25	穂積家住宅が県指定有形文化財(建造物)に指定される
	4. 1	横川小学校を廃止し君田小学校へ統合
	4. 26	日立・高萩・十王広域下水道組合伊師浄化センターで通水式
	4. 27	山形県新庄市と友好都市の盟約調印
	5. 18	(社)高萩市シルバー人材センター設立
	9. 21	多賀区域農業用道路若栗一横川間開通式
	9. 25	市民代表団が中国甘肅省蘭州市を訪問
	10. 29	皇太子殿下、茨城県地方事情御視察のため御来高
	11. 22	市制施行35周年記念式典挙行
	11. 22	写真集「高萩」ふるさとのあゆみ発刊 *平成元年度中に保健センターと松岡地区公民館完成予定

歴代市議会議長・副議長

代	議長氏名	副議長氏名	就 任	退 任
初代	舟 生 一 郎	佐 川 義 光	昭29.11.23	昭30.11.22
2	吉 田 秀 吉	小 松 正 治	昭30.12. 5	昭32.12. 4
3	檜 村 之 男	矢 代 光 史	昭32.12. 4	昭33. 9.27
4	吉 田 秀 吉	鈴 木 藤 雄	昭33. 9.27	昭34.11.22
5	鈴 木 藤 雄	豊 田 武 門	昭34.11.28	昭35.12. 5
6	小 松 正 治	矢 代 良 三	昭35.12. 5	昭36.12. 5
7	矢 代 光 史	鈴 木 好 之	昭36.12. 5	昭37.12. 1
8	鈴 木 藤 雄	川 松 光 彦	昭37.12. 1	昭38.11.22
9	吉 田 秀 吉	鈴 木 道 雄	昭38.12. 2	昭40.12. 6
10	川 松 光 彦	大 和 田 知 之	昭40.12. 6	昭41.12.21
11	豊 田 武 門	大 久 保 清	昭41.12.21	昭42.11.22
12	吉 田 秀 吉	阿 部 正 寿	昭42.11.28	昭46.11.22
13	大 和 田 知 之	棚 谷 立 夫	昭46.11.29	昭48.12.17
14	阿 部 正 寿	石 安 太 郎	昭48.12.17	昭49.12.17
15	棚 谷 立 夫	大 部 薫	昭49.12.17	昭50.11.22
16	大 部 薫	小 山 政 男	昭50.11.29	昭51.12.15
17	鈴 木 好 之	北 畠 暢 男	昭51.12.15	昭52.12.13
18	吉 田 秀 吉	佐 川 安 應	昭52.12.13	昭54.11.22
19	佐 川 安 應	鈴 木 一 二	昭54.11.30	昭55.12.22
20	鈴 木 一 二	近 藤 孝 一	昭55.12.22	昭58.11.22
21	吉 田 秀 吉	渡 辺 賢 太 郎	昭58.11.30	昭60.12.24
22	佐 川 安 應	寺 岡 七 郎	昭60.12.24	昭62.11.22
23	根 本 栄	鈴 木 徳 男	昭62.11.30	～在任中

歴代市長

代	氏 名	就任	退任
初代	小 峰 威 夫	昭29.11.23	昭33.12.24
2～4	安 村 篤	昭33.12.25	昭45.12.24
5～7	鈴 木 藤 太	昭45.12.25	昭57.12.24
8	大 高 省 三	昭57.12.25	昭61. 1.30
9	鈴 木 藤 太	昭61. 3. 2	～在任中

歴代助役

代	氏 名	就任	退任
初代	綿 引 倉 蔵	昭30. 1.18	昭33.12.24
2～4	岩 本 啓 治	昭34. 2.18	昭46. 1.18
5～7	下 山 田 一 郎	昭46. 3.12	昭58. 1.11
8	安 村 實	昭58. 5. 7	昭61. 3.29
9	熊 坂 吉 恵	昭61. 9. 9	～在任中

歴代収入役

代	氏 名	就任	退任
初代	吉 久 保 喜 夫	昭29.11.23	昭31. 1.31
2～6	村 田 正 己	昭31. 5.11	昭51. 5.10
7～8	岩 本 義 文	昭51. 5.11	昭58. 8.31
9～10	佐 川 誠 太 郎	昭58. 9. 8	～在任中



前列の左2人目から
藤陰静江・西條八十・中山晋平・江尻梢人(正一)

大正末期から昭和の初期にかけて、不況が深刻化し、全国的に労働争議や小作争議が続発していた頃、高萩には、常磐炭鉱節などはあっても町を代表するような民謡はなかった。そこで、花柳界の起死回生策の意味もあって、高萩出身の江尻正一氏と、彼と親交のあった西條八十氏との合作でできたのが、松原音頭であり高萩小唄であると推察される。

西條八十作詞／中山晋平作曲

高萩小唄

〔関東に アリヤサ

名さへ高萩 一度はおいで

サノヨイトサノサ

海もよしよし ヨササノサ

山もよし 山もよし

※ ハ ヨイノヨササノサ イッチヨサ

※各節繰り返し

〔白波で アリヤサ

姉が化粧すりや 妹も真似る

サノヨイトサノサ

沖の大唄 ヨササノサ

小咲浪 小咲浪

〔馬市で アリヤサ

仔馬売られて 親馬帰る

サノヨイトサノサ

春の高萩 ヨササノサ

おぼろ月 おぼろ月

〔待つ宵を アリヤサ

来てはとんとと 雨戸をたゞき

サノヨイトサノサ

こころ迷わす ヨササノサ

いなさ風 いなさ風

〔花づくし アリヤサ

水戸は白梅 平は桜 サノヨイトサノサ

間の高萩 ヨササノサ

波の花 波の花

〔松原は アリヤサ

はじめ採る娘の 唄から明けて

サノヨイトサノサ

霧にうきだす ヨササノサ

伊吹富士 伊吹富士

〔小夜千鳥 アリヤサ

心細さに 出て山見れば

サノヨイトサノサ

炭坑夜業の ヨササノサ

灯が赤い 灯が赤い

西條八十、江尻梢人作詞／中山晋平作曲
松原音頭

〔ハ

水戸を離れて 助川越えて ヨイ

君を松原 ヤレコノサイサイ

君を松原 小松原 ヨイシヨ

※ ハアレ ヨイトマカセ ズイトセ

シヨコ〜ズイトコリヤセ

※各節繰り返し

〔ハ

浜の小松は 東南風で揉める ヨイ

わたしやお前で ヤレコノサイサイ

わたしやお前で 気が揉める ヨイシヨ

〔ハ

ふたり揃うて 浜防風摘んだ ヨイ

あの日 あの時 ヤレコノサイサイ

あの日 あの時 あの夜から ヨイシヨ

〔ハ

鮑採る間も 網曳くひまも ヨイ

可愛いあの眼が ヤレコノサイサイ

可愛いあの眼が 忘らりよか ヨイシヨ

〔ハ

浜の玫瑰 燃えたつ頃に ヨイ

想いそめたが ヤレコノサイサイ

想いそめたが 恥かしや ヨイシヨ

〔ハ

願い叶うて 八幡詣で ヨイ

海も白帆の ヤレコノサイサイ

海も白帆の 日本晴 ヨイシヨ

〔ハ

花のなか縫う 花貫川に ヨイ

浮名散らした ヤレコノサイサイ

浮名散らした 春の風 ヨイシヨ

寺崎途至夫作詞 森 菊蔵補作詞
山路 進一作曲 押尾 司編曲

高萩市民の歌

一、 深いみどりの 阿武隈山脈よ

きょうも高萩 ほら 日本晴れ

ひかる家並よ 田よ畑よ

幸よ 実りよ みんなの誇り

そうだつてろう 豊かな市を

手と手つないで さあ高萩を

二、 咲いたはまなす 夢呼ぶ花よ

香り高萩 ほら つつんでる

秋の紅葉よ ダムに映え

川が潮が みんなを招く

そうだ のぼそう 自然の市を

こころひとつに さあ高萩を

三、 谷をながれる 花貫・関根

明日も高萩 ほら ながれてる

昇る朝日よ 太平洋よ

意気よ 力よ みんなの希望

そうだ めざそう 住みよい市を

ひとりひとりが さあ高萩を

森 菊蔵作詞 矢吹 光作曲・編曲

高萩市民ばやし

- 一、ここはソレ高萩 太平洋に
昇る朝日が 家並を染めてヨ
磯のはまなす 朱く咲くカヨ
- 二、ながれソレ花貫 滝よし 瀬よし
潮は名馬里か 紅葉が映えてヨ
ダムを背にして 海を見るカヨ
- 三、ひとりソレ竜子の 城あとに來て
昔しのべば はるかな夢がヨ
こもる思いの 松の風カヨ
- 四、磯じゃソレいしもち 沖にはめばる
小咲大咲浪 きらめく海のヨ
釣りて名の出た 高戸の浜カヨ
- 五、西はソレ山脈 東は海よ
のびる街並み 日ごとに繁盛ヨ
肥える黒牛 せりの市カヨ
- 六、まつりソレばやしが 高鳴る宵に
ふたり揃って 八幡様のヨ
杉に誓いの 縁むすびカヨ
- 七、海のソレ果てから 宇宙の星へ
ニュース届ける アンテナならばヨ
燃ゆる想いも 届こうにカヨ
- 八、押せやソレ押せおせ 高萩まつり
押せば大咲浪 花咲くようにヨ
可愛いあの娘の 花も咲くカヨ

写真提供・協力者

(個人) 敬称略

あ———	江尻さつ 江尻光昭 *	上遠野長政 神永久米男 神永 保 神長吉衛 *	齊藤ふみ 坂本善興 佐川清五郎 佐久間好雄 佐々木栄一 佐々木一雄 佐々木重信 *	関山英子 * 添田兵一 征矢良子 た——— 高野武三 滝 英雄 田代 力 田所徳雄 田中鉦一郎 田中経夫 田母神宗治 * 塚原 清 * 寺門正順 な——— 長久保源吾兵衛 生田目靖志	* 沼田きみ 沼田吉恵 * 根本 昇 は——— 萩谷直善 橋本 尚 長谷川鉄吉 花園教之 原 礼三 * 平井みの 蛭田和生 * 船田慶市郎 舟生ときえ * 星名春吉 穂積大輔	ま——— 真木孝成 政井 清 松崎一和 松本三郎 松本正男 * 宮田重則 * 茂又成徳 や——— 横谷如平 吉川多喜子 わ——— 若松健一 渡辺文麿 綿引芳子 和知ちよ
安島克己	大久保正次	菊地一六二	佐々木一雄	た———	は———	ま———
安藤啓次	大高德次	*	佐々木一雄	高野武三	萩谷直善	真木孝成
安藤トミエ	大都直教	木田恒夫	佐々木重信	滝 英雄	橋本 尚	政井 清
安東義博	大友キミ	木村はな	*	田代 力	長谷川鉄吉	松崎一和
*	大平こよ	*	椎名英雄	田所徳雄	花園教之	松本三郎
石 君平	大部善維寿	久保木慎一	柴田菊代	田中鉦一郎	原 礼三	松本正男
石 俊一郎	大部秀彦	黒沢光寿	柴田英利	田中経夫	*	* 宮田重則
石 龍馬	大森幹之	黒羽次男	柴田正己	田母神宗治	平井みの	* 茂又成徳
石井源助	大柳とよ	*	下山田昌右	*	蛭田和生	や———
石和 久	小島正義	小池正人	白土とみ	塚原 清	*	横谷如平
伊藤正美	小見守一	小泉幸一郎	*	寺門正順	船田慶市郎	吉川多喜子
猪又七郎	カ———	小松房子	助川義夫	な———	舟生ときえ	わ———
今川 誠	鹿島キミ子	紺野庄一	鈴木誠一	長久保源吾兵衛	*	若松健一
岩間かの	樫村嘉典	さ———	鈴木藤太	生田目靖志	星名春吉	渡辺文麿
*	樫村義光	齊藤幸作	鈴木広次		穂積大輔	綿引芳子
上田末三	加藤一雄	齊藤 博	鈴木保三郎			和知ちよ
宇佐美定男			*			
*						

(団体等)

KDD茨城衛星通信所 *	高萩市農業協同組合 高萩市老人クラブ連合会 高萩地区農業改良普及所 田中カメラ店 大建工業㈱ ㈱大心苑	* 永谷園㈱ 日本加工製紙㈱ 日本道路公団 農用地整備公団阿武隈八溝事務所 *	フジモト写真館 * 松丘高等学校 * 山之内製薬㈱
アトリエ絵夢	高萩営林署		
市川スタジオ	高萩工業高等学校		
宇部不動産㈱	高萩高等学校		
*	高萩市商工会		

参考文献

高萩市史(上・下)／高萩小学校百年のあゆみ／秋山小学校百年史／松岡小学校百年史／上君田小学校百年史／松岡村誌／高萩高等学校創立五十年「萩影」／高萩のあゆみ／多賀郡史／ズリ山が語る地域誌／市勢要覧／秋山中二〇年史／日立電鉄五十年史／赤浜遺跡発掘調査報告書(高萩市教育委員会1972年)／写真集～明治・大正・昭和「高萩」／写真集～空から見た「郷土高萩」／多賀駒史

編集後記

「写真集」は 21世紀を担う人への メッセージ



編集委員長
柏 義 夫

写真集の発刊にあたって

海と緑と太陽がいっぱいの産業文化都市高萩は、今年市制施行35周年を迎え、市民参加による写真集が発刊できることは何よりの喜びであり意義深いものと思います。

市制施行当時は、まだ、政治・経済・社会情勢の変動が激しく生活が苦しい時期でしたが、市民は市制施行による生活の向上への期待感でいっぱいでした。

高萩の特徴であった「炭鉱」「馬市」も今はなく、生活は大きく変わりました。こうした生活の歴史は、現在の生活のかがみでもあると思います。

本書作成にあたり、貴重な写真が3,000枚以上も提供されましたが、調査不十分な点もあり全部を掲載することができませんでした。未掲載の写真は、今後何らかのかたちで市民の皆様の期待に応えるよう、考えていかなければならないと思っています。

今年は写真が発明されて150年、当時の様子を生きいきと伝える写真のように、この写真集も、21世紀を担う市民へのメッセージとなることを願い、また編集にあたりご協力をいただいた各関係機関、貴重な写真を提供してくださった皆様にあらためて心から感謝とお礼を申し上げてごあいさつとします。

編集委員

金澤 和夫
作山 正雄
下山田 正弘
松本 弘文
棚谷 稔
松井 茂
長久保 孝徳

編集事務局

星 勝英
井下 勲
佐川 春久
渡辺 悦夫
和田 裕子

写真集「高萩」ふるさとのあゆみ

定価 3,000円（本体2,913円）
発行日 平成元年11月22日
編集 写真集「高萩」編集委員会
発行 高萩市
制作 茨城新聞社

市章：昭和30年2月19日制定

高萩市の市章は「高」を簡明に図案化し、上部の両翼は飛躍を意味し、中央の尖剣は向上を表わし、市の円満協力性と発展性を強く表徴した。この図案は一般から広く募集し、制定した。

